

REMATEC=Re:CS SUSTAINABILITY REPORT 2023

リマテック=レックス
サステナビリティレポート



REMATEC
Innovation for the Earth



Re:CS
GROUP
Re-Creation for Sustainable Society



CONTENTS

OPENING

OUR PURPOSE	01
理念とビジョン	02

価値創造ストーリー

TOP MESSAGE	03
価値創造の歴史	05
価値創造のプロセス	07

SUSTAINABILITY

リマテック=レックスグループのSDGs	09
脱炭素経営について	10
特集：脱炭素経営に向けて、 資源循環事業での新たな挑戦	11

事業戦略

事業の全体像	13
グループ各社一覧	14
資源循環事業 (SR事業)	15
資源循環事業 (RF事業)	17
物流事業	19
メンテナンス事業	20
環境修復事業	21
再生可能エネルギー事業	22
オープンイノベーション事業	23

ESGへの取り組み

環境	26
アクション	27
ガバナンス	29

データセクション

第三者意見	30
データ集	31

新たなステージへ サステナブルな進化

変わり続けるという決意で、
創造と革新により未来を切り拓く

海洋汚染から海を守るために創業して49年。持続可能な社会の構築に向けて、アイデアと技術をもって環境分野での社会課題の解決に取り組んできました。

これまで培った経験と実績、確かな技術とノウハウのもと、私たちがいなければ生まれなかった未来を創るために、これからも変化を恐れず、挑戦し続けます。

Innovation for the Earth

▶ 理念とビジョン ◀

グループ経営理念

技術 (Technology) をコアに、地球資源である

物質 (Material) を無駄なく効率よく

循環 (Recycling) させることによって、

持続可能な社会の構築に貢献できるグループを目指す。

あるべき社会像の実現

- すべての人が安全に安心して暮らせる社会
- 「環境」と「経済」が共存した持続可能な社会
- 自然の摂理にかなった循環社会

企業の役割・社会的責任

- 価値創造
- 組織が社会に与える影響に責任をもつ
- 社会的課題の解決に貢献する

環境理念

リマテック=レックスグループは、地球環境の保全が人類の持続可能な発展のために不可欠な重要課題であることを自覚する。よって、環境負荷低減、省エネルギー、省資源に努め、環境との調和を図りながら事業活動等を実践し、持続可能な社会の構築に貢献することを環境の基本理念とする。

安全衛生理念

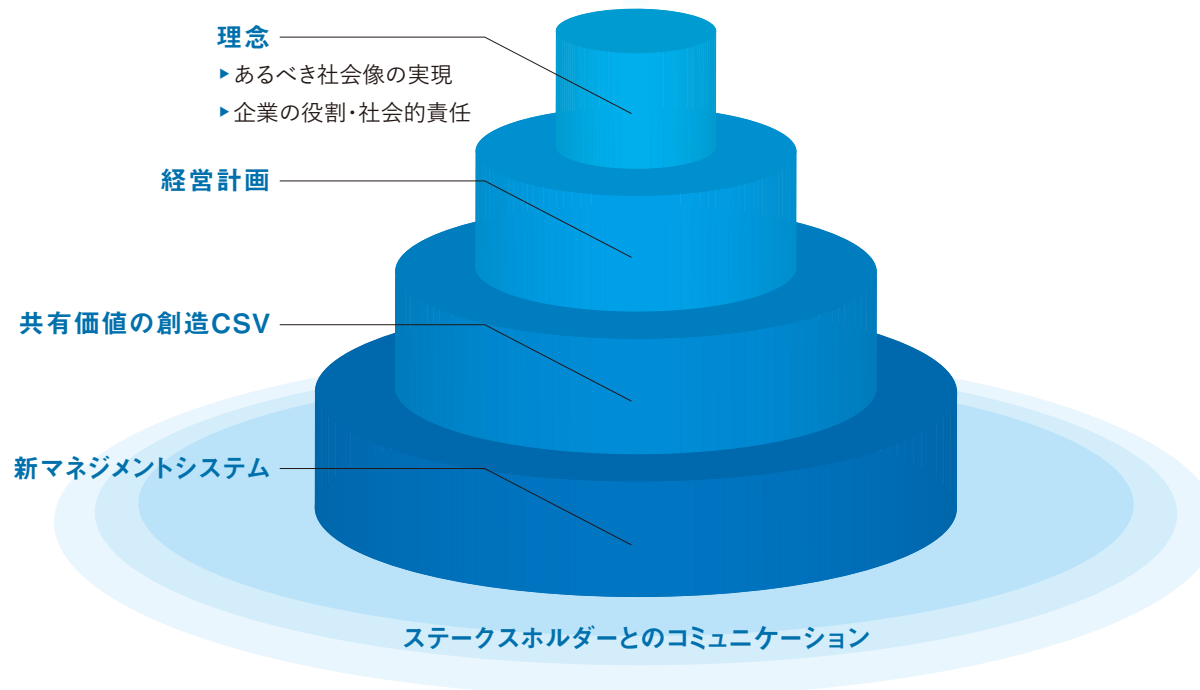
リマテック=レックスグループは、事業活動等を通じて社会への貢献を図るとともに、社員の安全衛生の確保は企業の存立の基盤をなすものであり社会的責任であることを自覚する。よって人間尊重の理念のもと、「安全第一」、「快適な職場環境」を安全衛生活動の基本理念とする。

Innovation for the Earth

Corporate Slogan

Mission

環境分野における社会的課題に対応する
イノベーションを創出すること



理念

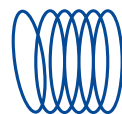
- ▶ ありべき社会像の実現
- ▶ 企業の役割・社会的責任

経営計画

共有価値の創造CSV

新マネジメントシステム

ステークスホルダーとのコミュニケーション



REMATEC
Innovation for the Earth

リマテック=レックスグループのロゴマークは、一つひとつのサークルが小さな循環を意味し、そのサークルが連鎖することによって資源循環型社会が構築されていくことを表しています。グループの提供する資源循環サービスの一つひとつが資源循環型社会構築に貢献していきたいという想いが込められています。グループは確かな技術とノウハウ、これまで培ってきた経験と実績をベースに、よりいっそう顧客価値創造に取り組み、ビジネスパートナーとして皆様の企業価値向上に貢献し、ステークホルダーの皆様と持続可能な社会づくりに邁進する所存です。

「私たちがいなければ 生まれなかった未来」を 創り続けることへの挑戦

“幸”循環未来を創造する リマテック=レックスグループ

本年のサステナビリティレポートは、リマテック=レックスグループとして初めての発刊に至りました。8年程前に株式会社レックスを設立してから、グループの資源リサイクル事業を段階的にレックスグループという名称でブランディングを進めてきました。しかし、この数年間に企業として気候変動に対応した経営戦略構築や、脱炭素に向けた目標設定などといった脱炭素経営が世界的に推進されていく中で、いわゆる動脈産業と静脈産業の垣根を越えたパートナーシップも一般化してきました。当グループとしても、資源エネルギー・環境領域での事業活動において、様々なステークホルダーとの協調によってこそ、持続可能な社会が実現できると考えています。

我々はこれまでレックスブランド(資源循環事業領域)と、リマテックブランド(環境事業領域)の両ブランドで培ってきた信用や信頼がグループとしての強みであると再認識しており、これらを統合・推進していくことで、事業活動を通じた複雑で複合的な社会課題解決を目指したいと考えています。

そうした意図から、“リマテック=レックスグループ”として本誌を発刊致しました。また、人、企業、地域、社会、それらすべてのステークホルダーを“幸福にする好循環が誕生し持続する未来を創造する”ことが私たちグループのありたい生業の姿である、という思いを込め、改めて、我々グループが実施している事業を「“幸”循環未来創造業」と定義しました。

創業から変わらない 地球環境への取り組み

そもそも我々グループの母体は、大阪湾の網元の系譜を引く水産会社でございます。創業者の「豊かな漁場を取り戻したい」との強い思いから創業したRF事業(RF:Reclaiming Fuel)は、海洋汚染の原因であった廃油などの産業廃棄物を原料として燃料を製造しており、およそ40年にわたりセメント会社様に供給してまいりました。現在もセメント会社様にRF燃料を引き続き石炭代替燃料としてご使用頂くことで、温室効果ガス(GHG)排出量を大幅に削減する取り組みに貢献しています。

本年は、新型コロナウイルスの流行とそれに伴う社会的困難が最近になってようやく終息し、行動制限などが無くなったことで経済活動も活況を取り戻してきました。その一方で、国連のグテーレス事務総長が、7月に表明したように、「地球温暖化の時代は終わり、新たに地球沸騰化の時代に突入した」ことを実感する年になりました。南極では海氷面積が観測史上最小値を更新したほか、世界各地で森林火災が発生しました。世界平均気温は、過去最高になるとのことです。ドバイで開催された国連気候変動枠組条約第28回締約国会議(COP28)では、「化石燃料からの脱却」に向けたロードマップが承認されました。

当グループでは、これまで、社内教育を通じた意識啓発、理解醸成を図るとともに、例えば、経済産業省主導で排出量削減にむけた国内イニシアティブ「GXリーグ」への賛同を表明し、参画し連携を深めているほか、事業活動によって排出されるGHG排出量の削減目標については、2020年に中小企業版SBTの認定を取得し、削減に向けて具体的な取り組みを進めています。

パートナーと創る 脱炭素社会

2050年カーボンニュートラルの達成は険しい道のりであり、企業単独で成せるわざではなく、さまざまなステークホルダーとの連携を通して、取り組んでいかなければならないことを実感しています。「環境分野における社会的課題に対応するイノベーションを創出すること」をミッションとして掲げる当グループにとって、「気候変動対策」は、経営の最重点項目であり、持続可能な社会の実現に向け、さまざまなステークホルダーとパートナーシップを形成し、協働して新たなバリューチェーンやプラットフォームの構築に取り組んでいます。2021年7月に大阪府とともに立ち上げた、公民連携による持続可能な脱炭素社会の実現に向けたプラットフォーム「OSAKAゼロカーボン・スマートシティ・ファウンデーション」では、脱炭素化社会を目指す取り組みについての情報発信やセミナー・イベントの開催を中心として、自治体・企業のほか、様々なステークホルダーと連携して持続可能な取り組みを進めています（会員数約2,400団体。2023年12月末現在）。2025年の万博開催を控える大阪が2050年の脱炭素社会実現における先導的な役割を果たしていけるよう、参画していただいている方々と連携しながらグループあげて微力を尽くす所存です。

また、株式会社バックキャストテクノロジー総合研究所では、会計データからGHG排出量を算定できるツールをバージョンアップし「ファストカーボン」として、7月にリリースを行いました。「ファストカーボン」は、クラウド型システムサービスで、使い慣れた会計ソフトのデータを読み込むだけで排出量を算定できます。昨年に続き、今年も大阪府議会の二酸化炭素排出量診断や、Jリーグクラブの試合運営に係るGHG排出量の算定にも使用されています。リソースが限られた中小企業において脱炭素経営を進めていく上での第一歩となる排出量・削減量の見える化の一助となれるよう、引き続き支援を進めていきます。

私たちがいなければ 生まれなかった未来

私たちリマテック=レックスグループは、来年2024年11月に創立50周年を迎えます。50年間の歴史を支えてきたものは、創業者から受け継がれてきた、イノベーションを起こすチャレンジ精神と、グループのDNAというべき理念とミッションです。その時々の変化に対して私たち自身も少しずつ変化して取り組んできたことは、ステークホルダーの皆様にご理解、ご支援いただいた賜物だと思っております。

持続可能な社会の実現に向け、今まさにパラダイムシフトの真ただ中において、変化の激しい時代に柔軟に適應しながらも、地に足を付けて、会社の歩みを進めていき、「私たちがいなければ生まれなかった未来を創る」という思いで誠実に挑戦し続ける所存です。今後も、引き続き、私たちグループの活動にご期待いただき、ステークホルダーの皆様の変わらぬご理解、ご支援をお願い申し上げます。

リマテックホールディングス株式会社
代表取締役社長

田中 靖訓



▶ 価値創造の歴史 ◀

価値創造の歴史

創業期

「海をきれいにしたい」という強い思いが
イノベーションを起こす

海の海洋汚染が社会問題となっていた1970年代、魚の風評被害が大阪湾の漁業者を苦しめていた。そこで立ち上がったのが、大阪府漁協組合の会長をしていた田中忠明。リーダーシップと起業家精神に溢れた彼は海上の油を回収し、海を美しくするビジネスを創ろうと1974年、リマテックの前身となる近畿環境興産株式会社を設立した。

その後、先代の社長であり現在のリマテックホールディングスの会長である田中正敏が、回収した廃油をセメント製造時の燃料に活用するため可逆的チキントロピー性を有するセメント焼成用補助燃料組成物「RF」を開発した。今日までリマテックのビジネスを支えるRF事業の始まりである。当初は「神聖な窯に廃棄物を入れるのか」とセメント会社に拒否されたというが、石炭よりコストが安く環境にも負担をかけないRFは、確実に業界に浸透していく。韓国や台湾からのオファーもあり海外への技術移転も行った。

「廃棄物を燃料へ」というイノベーションを実現した近畿環境興産は、環境ビジネスの革新的企業として注目されるように。関西国際空港の建設による廃棄物処理マネジメントなど、さまざまなプロジェクトに声がかかるようになった。そして、ビジネスは次の章へ展開していく。

挑戦期

社会を揺るがせた災害や
人災の廃棄物処理を引き受けてきた

阪神淡路大震災、ロシア船籍タンカー（ナホトカ号）の重油流出など、1995年以降は社会を騒がせた大きな震災や事故が続く。あまり知られていないが、縁の下の力持ちとしてこれらの廃棄物処理や回収を行ったのは近畿環境興産である。

もちろん最初から課題解決の手法を持っていたわけではない。どんな案件も「社会的意義があるから」と断らず、時にはボランティアでも良いという覚悟で挑み、それが確実に自社のスキルに育ってきた。挑戦を繰り返すことで成長を遂げてきたのだ。その最たるものが2002年に取り組んだ「岩手青森県境プロジェクト」。東北の現場には不法投棄された廃棄物が100万トン以上あり、調査から原状回復までに約11年の年月を要した。プロジェクトを担当したのは、社長就任前の田中靖訓。「有害物質も捨てられており難しい案件でしたが、誰も引き受けなければ我々がやるしかない。汚染拡散シミュレーションによるリスク最小化など実験を繰り返しながら技術を標準化してきました」と当時を振り返る。

創業期 1974年～1994年

挑戦期 1995年～2005年

1974
近畿環境興産株式会社を
設立

1975
産業廃棄物
収集運搬業開始

1983
大阪工場RFプラントを
建設しRF事業が開始

1985
北九州営業所を開設
タンククリーニング事業開始

1988
九州工場RFプラントを
建設

1992
関西空港PJ
関西国際空港建設に伴う
廃棄物の処理マネジメント

1993
大阪工場リプレイス
台湾RF PJ / 台湾へ
RFの技術移転

1995
震災廃棄物処理PJ
阪神・淡路大震災の
廃棄物処理管理業務

1996
韓国PJ / 韓国へ
RFの技術移転

1997
ナホトカ号PJ / 事故で
船から流出した重油を
回収・処理

2000
廃棄物再資源化PJ
食中毒事件に伴う廃棄物処理
のマネジメント
この年、初の環境報告書
「REMATEC 2000」を発行

2001
橋本PJ / ダイオキシンの
汚染現場の不法投棄
廃棄物処理マネジメント

2002
岩手青森県境PJ
不法投棄現場の
原状回復プロジェクトに着手
約11年かけて原状回復終了



大阪工場RFプラント建設（1983年）



九州工場RFプラント建設（1988年）



大阪工場リプレイス（1993年）



ナホトカ号-PJ（1997年）

岩手青森県境PJ（2002年）
※PJ:PROJECT(プロジェクト)の略称

▶ 価値創造の歴史 ◀

発展期

社名をリマテックに変えるとともに 環境ビジネスのトップランナーへ

環境リサイクルプロジェクトを手がけながら、さまざまな革新的事業にも挑戦して自社の可能性を広げてきた近畿環境興産。2006年には環境省の補助により世界初の商用亜臨界水処理プラントを建設、2008年にはエコ・ファースト企業に認定されるなど、行政からの注目度や信頼度もますます上がっていく。

2010年には社名をリマテック株式会社に変更。リサイクル、マテリアル、テクノロジーを合わせた造語である。そして翌年の2011年にはリマテックにとっても大きなターニングポイントとなる東日本大震災が起こった。震災による大量のがれきを処理するため、リマテックは東北支社を開設。田中靖訓ははじめ多くの社員が、災害廃棄物処理のため約3年間、現地にとどまった。「最初はとにもかくにも心配でボランティアとして駆けつけたところ、岩手青森県境PJで知り合った県庁職員の方から片付けを依頼されたのです。過酷な現場でしたが、社会貢献を肌で感じられ、社員たちの意識も大きく変わりました。」

東日本大震災復興PJにより、改めてビジネスの意義を実感した田中靖訓は、2014年に代表取締役社長に就任。同時にリマテックホールディングス株式会社へと移行した。

飛躍期

さまざまな業界との連携を密にして オープンイノベーションを加速

田中靖訓が社長に就任してから、リマテックはビジネスを大きく飛躍させていく。例えば東日本大震災で実感したエネルギー問題の解決を目指した太陽光発電やバイオガス発電などの再生可能エネルギー事業。2015年にパリ協定で掲げられたカーボンニュートラルと同時期に、既に脱炭素社会を意識した資源循環インフラ構築へ舵を切っていたのである。また、同じく復興支援の経験から地域活性化のための地産地消ビジネスにも参入。2018年に開始したATARA事業は、地域資源を利用したものづくりプロジェクトで、社員のアイデアから生まれた。

脱炭素とDXを融合させたITビジネスにも進出。グループ会社のバックキャストテクノロジー総合研究所が2021年に企業の会計情報からCO₂排出量が把握できるサービスを開始。

さらに2021年には大阪府と連携して脱炭素化を推進するプラットフォーム「OSAKAゼロカーボンファウンデーション」を立ち上げ、田中靖訓が代表理事に就任。さまざまな企業や行政との連携によるオープンイノベーションを加速させている。

発展期 2006年～2014年

- 2006 世界初の商用亜臨界水処理プラントを環境省の補助金を受けて堺市に建設
- 2007 洲本PJ／亜臨界水処理によるメタン発酵エネルギー活用
- 2008 エコファースト企業に認定3S(トライエス)PJ／家電メーカー工場のオンサイト廃棄物自家処理・再資源化システムを提案
- 2009 NaK PJ／原子炉の冷却剤として研究されていたNaKの安全な回収・廃棄を実現
- 2010 リマテック株式会社に社名変更 岐阜不法投棄原状回復PJ／発熱する不法投棄現場の水蒸気消火を実施
- 2011 東日本大震災復興PJ／海水をかぶった膨大な災害廃棄物を約3年かけて処理
- 2012 滋賀県大津PJ／不法投棄された廃棄物の支障除去・再生燃料化・焼却などの処理実施
- 2013 タイ王国およびアジアでの廃棄物リサイクル事業推進のため、海外現地法人REMATTEC & KSN Thailand (RKT) を設立
- 2014 持株会社体制へ移行、リマテックホールディングス株式会社へ太陽光発電事業を開始／広島災害復興PJ／豪雨土砂流による災害廃棄物の適正処理



亜臨界水処理プラント建設(2006年)



東日本大震災復興-PJ(2011年)

飛躍期 そして未来へ 2015年～

- 2015 RKTとサイアムセメントグループの合併会社 Green Conservation Solutions (GCS) 設立
- 2016 再資源化事業を行ってきた3社の営業部門を統合した株式会社レックスを設立 熊本地震災害復興PJ／災害廃棄物の適正処理
- 2017 大分県津久見市豪雨災害PJ／台風18号による河川氾濫で発生した汚泥、がれき等の適正処理
- 2018 ATARA事業開始 広島県呉市豪雨災害PJ／豪雨により発生した災害廃棄物を処理 大阪府岸和田市災害復興PJ／台風21号による災害廃棄物の適正処理
- 2019 タイ王国3RPJ／「我が国循環産業の戦略的国際展開による海外でのCO₂削減支援事業」を実施
- 2020 RF岸和田工場(リマテック)を株式会社レックスRFに社名変更
- 2021 大阪府と連携して「OSAKAゼロカーボンファウンデーション」を立ち上げ バックキャストテクノロジー総合研究所がCO₂排出量算定システムをリリース



Green Conservation Solutions (GCS) を設立(2015年)



ATARA事業開始(2018年)

▶ 価値創造のプロセス ◀

社会課題に挑む リマテック=レックスグループ

地球環境のために、人々が安心して暮らすために、
幸福な社会の実現のために。

あらゆる課題に対する最適解を求めて、
私たちは常にビジネスの意義を問い直し、
技術革新に挑みます。

SX

サステナビリティ・
トランス
フォーメーション

環境

地球温暖化
資源の減少・枯渇
エネルギーの転換
多様化する環境問題

安全・安心

環境汚染
自然災害
人為災害

コミュニティ

少子高齢化
経済格差

GX

グリーン・
トランス
フォーメーション

DX

デジタル・
トランス
フォーメーション

リマテック=レックスグループを取り巻く社会の潮流とトレンド

リマテック=レックスグループ 3つの重点項目

社会システムの変化に対応した

1 適切なマネジメント システムの構築

SDGsへの対応／脱炭素社会への対応／
グループ経営管理システムの整備

2 ビジネス モデルの構築

脱炭素社会に適したビジネスモデルの構築／地産地
消型地域ビジネスモデルの構築／新たにグループ内に
取り込んだ技術を活用した社会実装モデルの構築

社会システムの変化に対応できる

3 技術および 技術力の獲得

2050年にグループの事業ドメインに必要となる技術の抽出／
必要となる技術の取り込みのための技術開発／必要となる
技術の取り込みのためのアライアンスネットワークの構築

▶ 価値創造のプロセス ◀

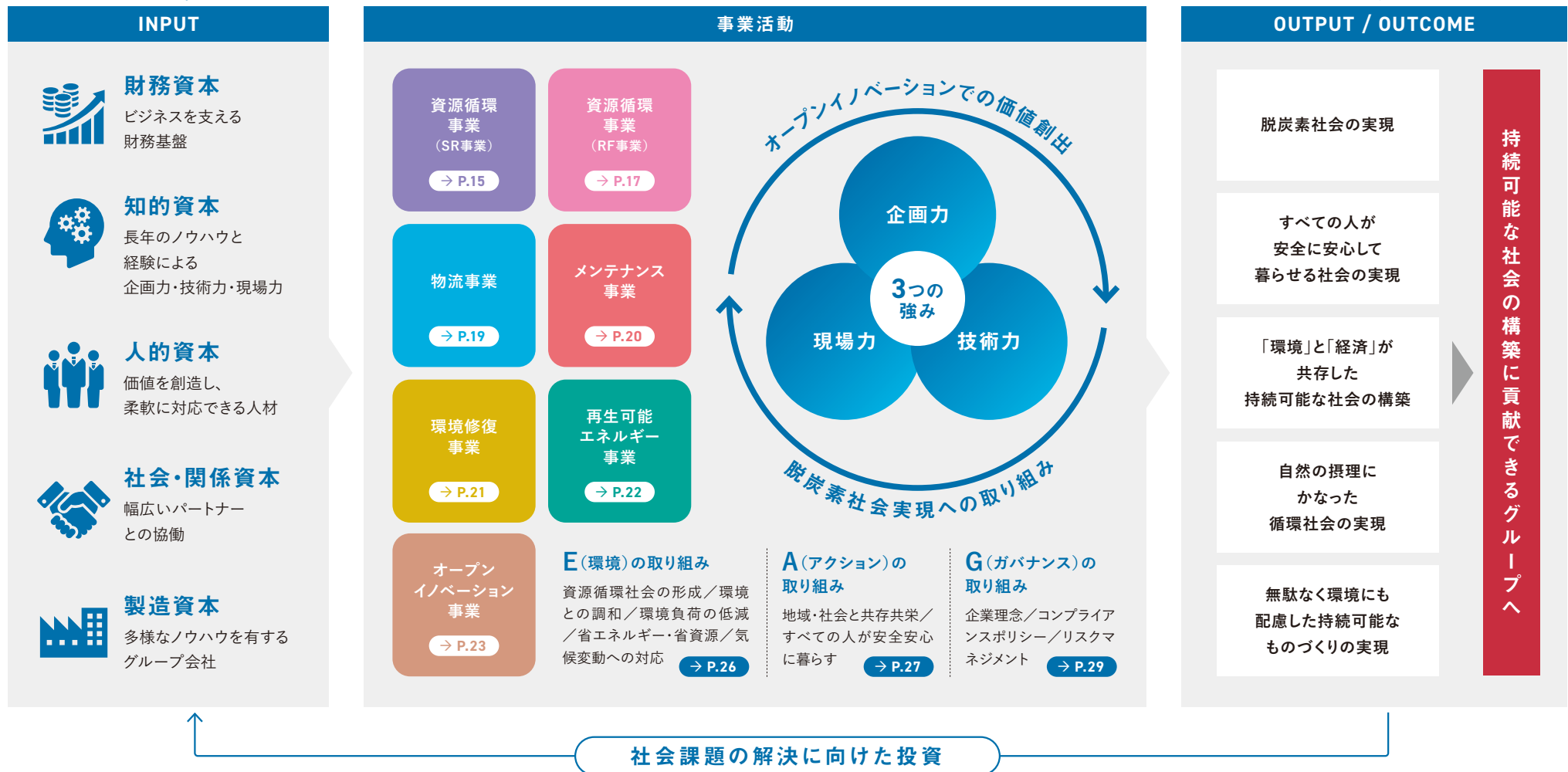
価値創造のプロセス

これまで積み上げてきたリマテック=レックスグループの資本をもとに、「企画力・技術力・現場力」の強みを活かし、事業展開することで、持続可能な社会に貢献する新たな価値を創出し続けてまいります。

Corporate Slogan

Innovation for the Earth

社会課題の解決による価値創造



▶ リマテックグループのSDGs ◀

リマテック=レックスグループのSDGs

リマテック=レックスグループは、「企業活動の脱炭素化」に「オープンイノベーション」で取り組むことによって持続可能な社会の実現に貢献します。

事業との関連性のある9つの項目

リマテック=レックスグループでは「SDGsの企業行動指針(SDGs Compass)」を参考に、「海や森の豊かさや自然」を含めたグループの事業活動と関わりが深い9つの目標についてマッピングしております。このうち5つを重点項目とし、各事業が連携した経営を実践・SDGsを企業戦略として経営統合し目標達成を目指します。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

〈5つの重点項目〉



17 パートナシップで目標を達成しよう



すべてのパートナーとともに、イノベーションの推進を

グループの全ての事業活動がパートナーと深く関わっており、社会的課題の解決のためには、幅広いパートナーとの協働が必要です。SDGsを企業戦略として経営統合したうえで、グループ内外全てのリソースを巻き込み、パートナーシップで目標達成を目指します。

脱炭素の推進

7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに



2050年までの脱炭素社会の実現および再生可能エネルギー100%を目指し、国内4か所に太陽光発電施設を設置しています。また、「再エネ100宣言 RE Action」に賛同・参加表明も行い、グループを挙げて再生可能エネルギーのさらなる活用の推進を図っています。再生可能エネルギーの普及・拡充の取り組みを通じて、社会に貢献していきます。

資源にあたらしい価値を

9 産業と技術革新の基盤をつくろう



「もったいない」「余すことなく使う」という日本が大切にしてきた伝統を継承し、新しいものづくりに取り組んでいます。未利用・低価値な資源に新しい価値を生み出すことで、その地域における価値にもつなげていくことを考えています。全ての資源が当たり前活用される社会となることを目指し、新たなものづくりに挑戦し続けていきます。

人々が安心して暮らせるまちづくり

11 住み続けられるまちづくりを



日本各地で、地球温暖化などの異常気象に伴う大規模な台風や大雨、巨大地震などの自然災害が発生しています。そのほか、不法投棄や有害物の流出など人為災害もある中、これらの災害で発生した廃棄物は、人々の日常生活に大きな影響を与えるため、迅速な処理が求められます。リマテックグループでは「企画力・技術力・現場力」の3つのチカラで課題解決に取り組み、その総合力で一日でも早く復旧できるよう努めています。また、東日本大震災での廃棄物処理の経験を活かして、地域に根ざした資源循環の推進にも取り組んでいます。

再生燃料の生産と普及

12 つくる責任 つかう責任



産業廃棄物を原料に製造する再生燃料(RF)は、石炭代替燃料として石炭等の化石燃料の使用削減につながり、地球温暖化の原因といわれている温室効果ガス排出量の抑制にも寄与しています。また、SBT認定を取得し、グループの温室効果ガス排出量の見える化にも取り組んでいます。スコープ1、2、3の算出を行い、グループ全体の温室効果ガス総排出量を把握することで、事業活動における環境負荷の削減目標の設定、取り組みへとつなげています。

脱炭素社会の実現へ

13 気候変動に具体的な対策を



「再エネ100宣言 RE Action」への参加表明、SBT認定取得を行い、グループ全体で各目標に向けて取り組んでいます。また、OSAKAゼロカーボンファウンデーションの設立・参画や、CO₂排出量可視化ツールの提供を通じて、社会全体の脱炭素化の推進にも貢献しています。事業活動と環境との調和を図りながら、2050年の脱炭素社会の実現に向けて、グループの総力を挙げて取り組んでいます。

▶ 脱炭素経営について ◀

脱炭素経営について

グループにおける
SDGsと脱炭素の
取り組み

SDGsの目標達成を実現するためには、グループ全体のCO₂排出量を把握して、「見える化」することが重要と考えています。さらに、脱炭素社会の実現にはパートナーシップが不可欠です。リマテック=レックスグループでは、グループ内だけでなく、グループ外の人材、技術、ノウハウ、知識といったリソースも巻き込んで、革新的なプロダクトやアイデアを創出するイノベーションを推進していきます。また、2050年になっても社会インフラを支え、社会に貢献できるグループであるための「サステナブルプラットフォーム」の構築に邁進し、将来にわたってステークホルダーの皆様から信頼される企業グループとなるよう努めていきます。

リマテック=レックスグループが参加する
気候変動対策のイニシアチブ

● 温室効果ガス削減



● 循環型社会の形成・地球温暖化対策・脱炭素化・環境教育



● 個社独自の環境の取り組み

ISO14001

● 再エネ100



SDGsの取り組み

4月 SDGsに関する社内教育の開始

12月 SDGsへの取り組みを「CSRレポート2017」に掲載



1月 関西SDGsプラットフォームに参加

7月 さらに理解を深めるための社内教育「SDGsとは」の実施



11月 外部講師による社内教育「SDGsカードゲーム」の実施



6月 内閣府 地方創生SDGs官民連携プラットフォームに参加

8月 さかいSDGs推進プラットフォームに参加

2月 大阪府「私の参加SDGs宣言プロジェクト」に参加

7月 OSAKAゼロカーボンファウンデーションに参画および事務局を運営



3月 経済産業省「GXリーグ基本構想」へ賛同

5月 大阪・関西万博「TEAM EXPO 2025」プログラム / 共創パートナーに登録



2023

5月 リマテックホールディングスグループが「GXリーグ」に参画

7月 バックキャストテクノロジー総合研究所がCO₂排出量見える化ツール「ファストカーボン」をリリース

脱炭素への取り組み

2017

4月 RE100加盟に向けての調査開始

2018

3月 RE100認定要件に該当しないことが判明し加盟を断念

8月 2018年度環境省 脱炭素経営による企業価値向上促進プログラム「中小企業版2°C目標・RE100の設定支援」応募・採択

12月 SBT目標水準に整合した目標を設定
環境省「企業版2°C目標ネットワーク
(現:脱炭素経営促進ネットワーク)」に参加

2019

5月 日本気候リーダーズ・パートナーシップ(JCLP)に参加

6月 グループ各社からCO₂排出量にかかるデータ収集を開始8月 CO₂排出量算出結果に対する第三者検証を受け認定される

10月 RE100の中小企業版「再エネ100宣言 RE Action」に参画

12月 CO₂排出量の算出結果を開示

2020

9月 グループの温室効果ガス削減目標がSBTの認定を取得

2021

1月 CO₂排出量算定&SDGs目標設定支援アプリをリリース

2022

特集 脱炭素経営に向けて、資源循環事業での新たな挑戦

株式会社レックスと共に運営してきたリマテックグループとマルサングループは2023年4月に資本関係を見直し、資源循環事業は、統一ブランド“レックス”として実施するため、社名変更を実施いたしました。サーキュラーエコノミーの観点から、サプライチェーン全体の資源生産性と炭素生産性を追求したご提案を実施すべくグループ一丸となって挑戦して参ります。

グループの構成

組織再編により株式会社レックスSRを含む計9社で構成されるグループとなりました。同社が展開する廃プラスチック類を燃料化するSR事業が新たに事業領域に加わり、化石代替燃料として使用されることによる環境負荷低減と循環型社会の構築に一層貢献しています。また、これまでリマテックグループとして資源循環事業を行っていた「リマテック九州株式会社」「リマテック東北株式会社」はそれぞれ「株式会社レックス九州」「株式会社レックス東北」に社名を変更しております。

サステナビリティ戦略

リマテック=レックスグループは、脱炭素・循環型社会の実現を目指しており、まずは気候変動への対応として、2030年までにスコープ1およびスコープ2を2018年度比で30%削減する目標を掲げています。

また、グループの長期ビジョンを実現するにあたり、企業活動を脱炭素化することはもちろん、複数の企業や様々な業種・業界が連携して互いの技術や資本を生かしながらオープンイノベーションでの価値創出により資源生産性と炭素生産性を両立させ、環境分野の社会課題を解決するエコシステムを構築していくことで、環境分野の課題の解決にも取り組んでいます。

リマテック
=レックス
グループ
構成図



**REMATEC
HOLDINGS**

リマテックホールディングス株式会社



脱炭素化に向けた取り組み

事業拡大による排出量増加の可能性を考慮し、ネットゼロを目指します

リマテック=レックスグループでは、「再エネ100宣言 RE Action」への参加表明や「SBT (Science Based Targets) イニシアチブ」に認定された目標に基づき、事業活動に伴う温室効果ガス削減に取り組んでいます。

これまでリマテックグループではグループ会社6社のCO₂排出合計を算定しておりましたが、グループ統合により新たに3社を加えた計9社のCO₂排出量をグループの排出量として報告し、目標達成に向けて取り組んで参ります。

● サプライチェーン排出量

スコープ1

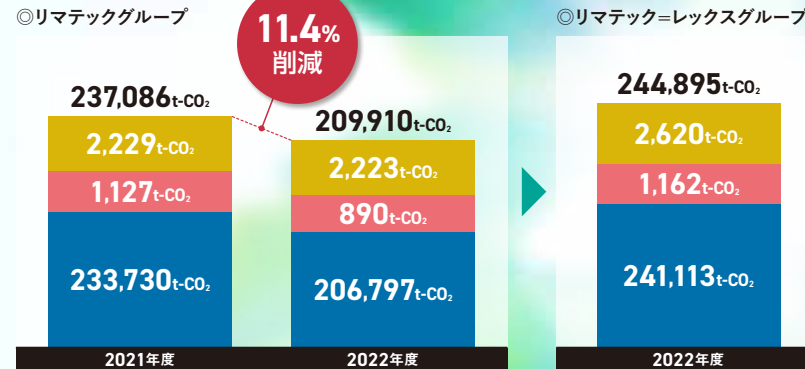
直接排出
自社での燃料の使用
や工業プロセスによる
直接排出

スコープ2

エネルギー起源の
間接排出
自社が購入した電気・
熱の使用に伴う
間接排出

スコープ3

その他の
間接排出



再エネ100宣言

- 2030年までに再エネ率50%
- 2050年までに100%達成



SBT

- スコープ1およびスコープ2の温室効果ガス排出量を2030年までに2018年度比で30%削減。
- スコープ3の温室効果ガス排出量の把握と削減に取り組むことを約束。



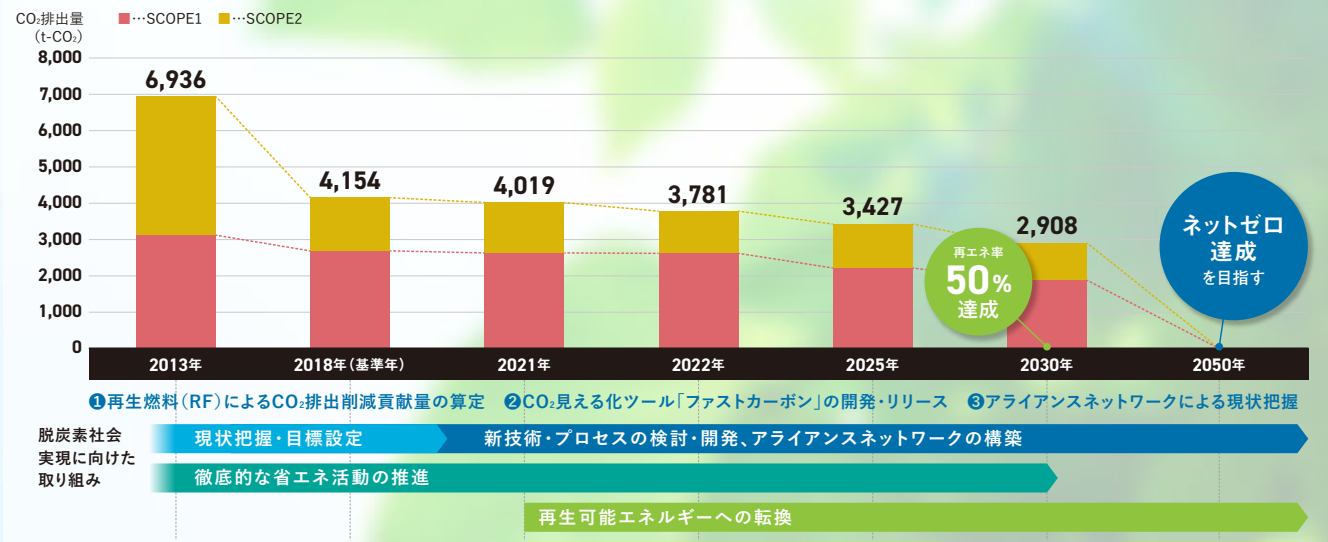
企業群・官・学をつなげる「GXリーグ」へ参画

リマテック=レックスグループは、2022年の「GXリーグ基本構想」への賛同に続き、同基本構想に基づいて設置された「GXリーグ」*に参画いたしました。同リーグの活動は、脱炭素に向けた取り組みを経済の成長の機会と捉え、多くの産業・企業と協働して取り組んでいくとするグループの活動方針とも一致しており、同リーグへの参加によって脱炭素経営の強化とGXの加速化に取り組んでいます。

GXリーグにおけるグループの温室効果ガス排出量削減目標は、基準年を2013年度としておりますが、SBTのグループ目標である2030年度排出量を2018年度比で30%削減の水準は維持したまま設定しており、2013年度比では58%の削減目標としています。次年度では、CO₂排出量算定においてDX化を進めるべく算定方法の見直しを行う予定です。

*経済産業省「GXリーグ」の概要 <https://gx-league.go.jp/>

● リマテック=レックスグループの脱炭素ロードマップと取り組み

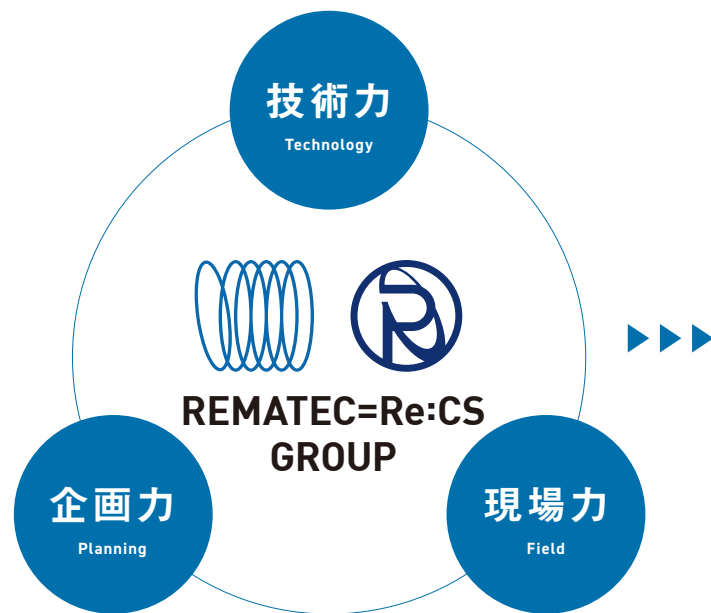


*GXリーグの参画に伴いスコープ2の排出係数を基礎排出係数から調整後排出係数に変更いたしました。

▶ 事業の全体像 ◀

環境課題に対応するイノベーションを創出する リマテック=レックスグループの 事業領域

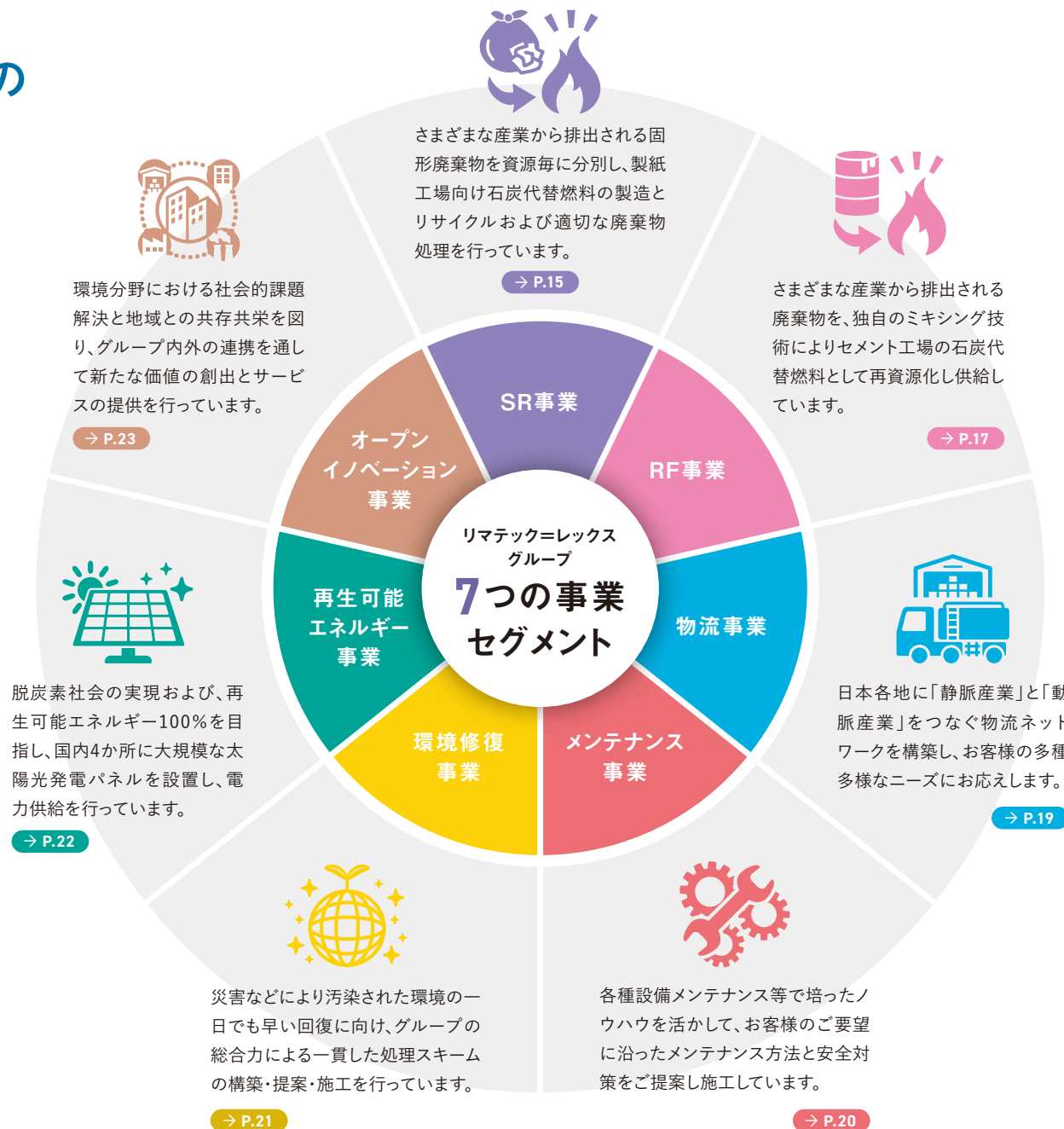
リマテック=レックスグループは、資源循環事業を中心とした環境ビジネスを生業とし、資源循環や地球温暖化対策といった環境分野での社会的課題の解決を主たる事業領域としています。



グループならではの

「3つのチカラ」を結集し、事業を推進

長年のノウハウと経験による「企画力」「技術力」「現場力」を結集させ、地域に根ざし、地域の声を聞き、そして地域の力を借りながら、それぞれが抱える課題の解決に貢献していきます。



環境課題に対応するイノベーションを創出する リマテック=レックスグループ

社会の資源循環インフラを担う企業グループへ

REMATEC HOLDINGS

リマテックホールディングス株式会社

<https://www.rematec.co.jp>

本社 / 〒596-0015 大阪府岸和田市地蔵浜町11-1
tel.072-438-4146 fax.072-422-3809

◎傘下グループ会社の経営管理およびそれに付帯する業務、再生可能エネルギー事業

RTT RTT株式会社

<https://www.rtt-rematec.co.jp>

本社・大阪支社 / 〒596-0015 大阪府岸和田市地蔵浜町11-1
tel.072-433-7880 fax.072-433-7881

九州支社 / 〒875-0201 大分県臼杵市野津町大字野津市648-1
tel.0974-32-7820 fax.0974-32-7821

◎一般貨物自動車運送事業
◎産業廃棄物収集運搬業
◎労働者派遣業

Re:CS 株式会社レックス

<https://re-cs.co.jp>

本社 / 〒542-0081 大阪府大阪市中央区南船場1-3-9
プレミアム長堀ビル6階
tel.06-6210-2327 fax.06-6210-2328

◎廃棄物コンサルティング営業

Re:CS九州 株式会社レックス九州

<https://kyushu.re-cs.co.jp/>

本社・九州工場 / 〒875-0211 大分県臼杵市野津町大字都原906
tel.0974-32-7721 fax.0974-32-7731

津久見事業所 / 〒879-2471 大分県津久見市合元町2-1
太平洋セメント株式会社 大分工場津久見プラント内
tel.0972-82-9055 fax.0972-82-7025

◎産業廃棄物処理業
◎再生燃料(RF)製造事業
◎産業廃棄物収集運搬業
◎設備メンテナンス事業

Re:CSSR 株式会社レックスSR

<https://sr.re-cs.co.jp/>

摂津工場 / 〒566-0042 大阪府摂津市東別府三丁目7-2
tel.06-6349-3830 fax.06-6340-5568

北港工場 / 〒554-0033 大阪府大阪市此花区北港二丁目1-67
tel.06-6225-8300 fax.06-6225-8301

◎産業廃棄物処理業
◎再生燃料製造事業
◎産業廃棄物収集運搬業

Re:CS東北 株式会社レックス東北

<https://tohoku.re-cs.co.jp/>

本社 / 〒022-0007 岩手県大船渡市赤崎町字亀井田2-3
tel.0192-47-3526 fax.0192-47-3527

花巻ラボ / 〒025-0312 岩手県花巻市二枚橋5-6-3 B-7
tel.0198-41-3033 fax.019-903-0306

◎資源循環に関する請負事業
◎資源循環コーディネート業務
◎未利用資源を活用した製品製造業務
◎産業廃棄物収集運搬業

株式会社バックキャスト テクノロジー総合研究所

<https://bct2050.com/>

本社 / 〒105-0001 東京都港区虎ノ門1丁目2-20
第3虎の門電気ビルディング5階
tel.03-5209-2050 fax.03-3548-8245

◎環境・エネルギーコンサルティング
◎ライフスタイルデザイン

REMATEC R&D リマテックR&D株式会社

<https://www.rematec.co.jp/rd/>

本社 / 〒592-8331 大阪府堺市西区築港新町4丁2-4
tel.072-280-0525 fax.072-280-0526

◎新規事業・技術の開発
◎コンサルティング業務

Re:CSRF 株式会社レックスRF

<https://www.rematec.co.jp/rematec/>

本社 / 〒596-0015 大阪府岸和田市地蔵浜町11-1
tel.072-438-6434 fax.072-422-3617

◎産業廃棄物処理業
◎再生燃料(RF)製造事業

資源循環事業 SR事業

資源循環事業 RF事業

物流事業

メンテナンス事業

環境修復事業

再生可能エネルギー事業

オープンイノベーション事業

| 株式会社レックスSR 摂津工場・北港工場 |

資源循環事業 **SR事業**

「廃棄物からリサイクル」へ

関連する
SDGs

摂津工場 RPF設備



北港工場 RPF設備

廃棄物を石炭代替燃料として利用することによって
「CO₂削減」に貢献しています

レックスSRでは、リサイクル困難な中間処理物もアライアンス企業を生かし最大限のリサイクルをおこない、「循環型社会」の構築に貢献しています。また、石炭代替燃料に代わる高品質なRPFを製造しており、あらゆる産業の燃料として使用されています。

近年、石炭や化石燃料に代わる新燃料として注目されているRPFは、廃棄物で処理されるものを燃料として活用できるため、環境に優しい商品となっています。さらに、RPFは、石炭に匹敵する熱量であるにもかかわらず、CO₂排出量が石炭と比較し約30%削減効果が見込まれます。このように高い性能をもち、廃棄物由来の商品として今後もさらなる需要の拡大が予想されています。

社長の声

株式会社レックスSRは、
サステナビリティレポートに初参加となります

株式会社レックスSR(旧:株式会社マルサン)は、昭和43年創業で今年55年目を迎える会社です。大阪都心部に2工場を構え、摂津工場では新たに4月より破碎選別機械を導入し、リサイクル率の向上に努めています。循環型社会の形成に向けて、環境保全だけでなく、経済発展や社会貢献にも積極的に取り組んでいる会社です。

事業活動を取り巻く環境制約は、年々厳しくなり、時代の変遷とともに地域環境のニーズは多様化し、求められる技術も高度化しております。これらの産業廃棄物処理に関する社会的な課題の解決に向けて、さらなる努力で、ステークホルダーの要求に応えることのできる持続可能な企業であり続けたいと願っております。

株式会社レックスSR
代表取締役
紺谷 洋之

RPFとは?

「RPF」とは、Refuse derived paper and plastics densified Fuelの略称であり、主に産業系廃棄物のうち、マテリアルリサイクルが困難な古紙及び廃プラスチック類を主原料とした高品位の固形燃料です。RPFは、大手製紙会社、鉄鋼会社、石灰会社など多くの産業で石炭やコークス等、化石燃料の代替として使用されています。



廃棄物(RPF原材料)



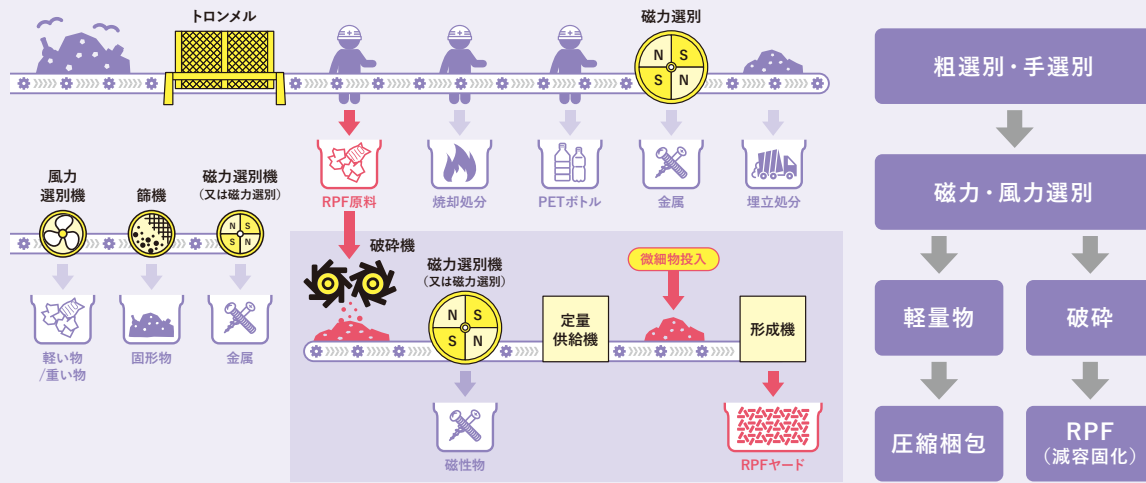
RPF製品

RPF事業の
POINT

- ①石炭代替燃料のRPF出荷量 3,000t/年
- ②温室効果ガス33%削減(石炭比)
- ③RPFの灰化率は3分の1削減(石炭化)
- ④オペレーターと機械の組合せによる高精度選別
- ⑤中間処理物はアライアンス企業を活かし最大限リサイクル

資源循環事業 SR事業

SR処理フロー



電力量(CO₂)の削減(EV社有車/充電設備・LED照明)

レックスSRでは、社有車の1台をEV車とし、化石燃料の削減に取り組んでいます。また、工場や事務所等、全ての照明は、LED照明へと変更し、積極的なCO₂排出量削減対策を実施していきます。



EV車充電状況及び充電設備(出力6.0kw)



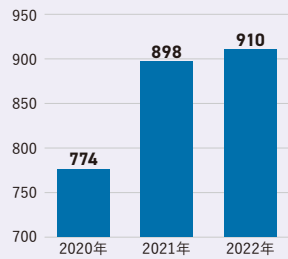
摂津工場LED照明



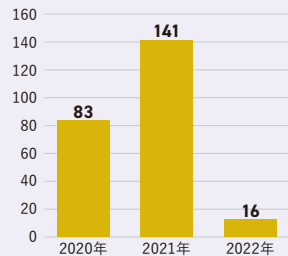
北港工場LED照明

業績ハイライト

■売上高(百万円)

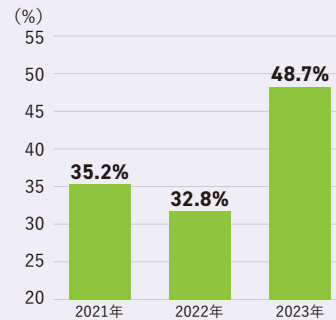


■経常利益(百万円)



処理設備(摂津工場)

摂津の第5工場は、摂津工場の更なるリサイクル率の向上を図るため、2023年5月より稼働を開始しました。稼働後は、リサイクル率が16%増加、それに伴い最終処分とする廃棄物の削減に貢献しています。



太陽光パネル

摂津工場は、新事務所に太陽光パネル出力9.9kwの発電設備を設置し、事務所で使用する電力を自社で賄っています。

北港工場は、工場の屋根を利用した太陽光パネル発電出力86.6kwを設置しています。また、設置した太陽光パネルは、工場で使用する電力量の削減及びパネルによる遮熱効果が期待できるため、二酸化炭素(CO₂)の排出量削減に貢献することができます。



北港工場



摂津事務所屋上

資源循環事業 SR事業

資源循環事業 RF事業

物流事業

メンテナンス事業

環境修復事業

再生可能エネルギー事業

オープンイノベーション事業

| 株式会社レックスRF | 株式会社レックス九州 |

資源循環事業 RF事業

廃棄物を利用した再生燃料

関連する
SDGs様々な廃棄物を混練し
石炭代替燃料へ再資源化

様々な産業界から排出される廃油、汚泥、ばいじんなどの多種多様な廃棄物を、独自特許技術によって、セメント工場の石炭代替燃料となるRF (Reclaiming Fuel/廃棄物を利用した再生燃料)へ再資源化しています。長年培ってきた経験・技術から開発された独自のミキシング技術により、性状の異なる廃棄物を混練し、安定した品質のスラリー状のエマルジョン燃料を生産し出荷しています。

RFの特長は、①性状が異なる廃棄物を混練して燃料化することができるため高いリサイクル率を保持していること、②RFを製造する際に焼却を伴わず、また廃水も発生しないため二次公害がないこと、③RFを使用後の燃え殻もセメント原料として全量利用されるため最終処分がありません。そして、最大の特徴は、RF供給先で化石燃料である石炭の使用量削減に貢献する“地球にやさしい”リサイクル・システムであることです。

社員の声

社会活動を通じて環境とのコミュニケーションを続けたい

4月に出来た18歳の後輩と喋っている際、彼の日本語に理解が追いつかない場面があった。10歳以上も離れてしまうと価値観やカルチャーと言ったいわゆるジェネレーションギャップに悩まされることとなった。そこで大切にしたいのが「相手のことを知ろう」という努力である。相手を知るといのは彼の価値観を認めるということ。広義においてそれは地球環境にも繋がるのかもしれない。地球を知り環境の価値を知る。そうやって私は社会活動を通じて環境とのコミュニケーションを続けたい。

株式会社レックスRF
生産部 製造課
柿花和明

背中を示す指導者を心がけ安全第一で取り組む

入社して6年目を迎え、製造課の安全委員として部門の安全を牽引する役目を任されています。後輩もでき、指導する立場になったことで、平日頃から心掛けていることは「自分自身が背中を示す」ことです。現在はヒューマンエラーを無くするため、現場の第一線で指差呼称の定着化に向け取り組んでいます。これからも、安定操業を支える一員として、安全第一で取り組んでいきます。ご安全に。

株式会社レックス九州
生産部 製造課
宮崎伸也

資源循環事業 RF事業

TOPICS

プッシュプル型換気装置による
臭気対策 (レックスRF)

レックスRFでは、ドラム缶処理時の臭気対策として局所排気装置からプッシュプル型換気装置に変更しました。プッシュプルは吹出しフードから清浄な空を送り続けて吸込みフードで吸引・排気するもので、一定方向の流れをもつ気流をつくることでドラム缶内容物取り出し時に発生する臭気の拡散を抑制し、作業環境の更なる改善に繋がりました。また、作業場所からの臭気の拡散を抑制できたことで建屋外に漏れることも抑制でき、環境負荷の低減にも繋がっています。今後も作業者が安心して作業できる快適な職場づくりや環境負荷の低減を進めてまいります。



TOPICS

安全大会の開催 (レックス九州)

令和5年7月3日、令和5年度の全国安全週間の取り組みとして安全大会を開催しました。安全大会では、毎年安全週間初日から9月末までの当社独自の取り組みである、「夏期無事故無災害92日間運動」の説明が行われました。

今年の92日間運動のメインテーマは、「指差呼称の定着」です。指差呼称の歴史、基本動作、何故必要なのかについて外部講師の講和で学びました。各課の安全委員を筆頭に社員一丸となって指差呼称を実践することで夏の暑さから来る「うっかり・ぼんやり」を防止し、期間中の完全無事故無災害を達成することを誓いました。



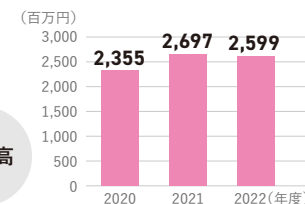
RF製造フロー



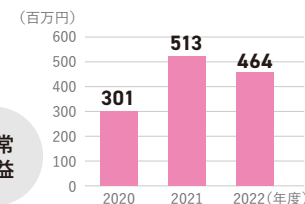
業績
ハイライト

レックスRF・
レックス九州合算

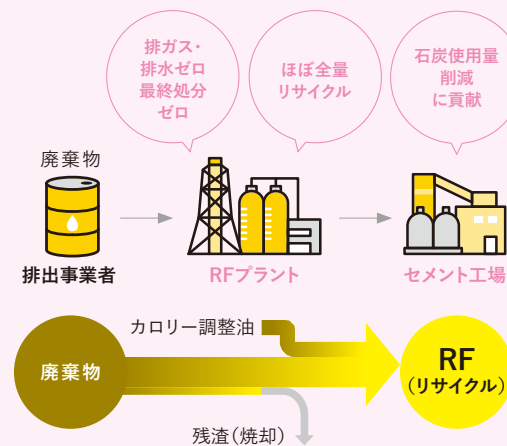
売上高



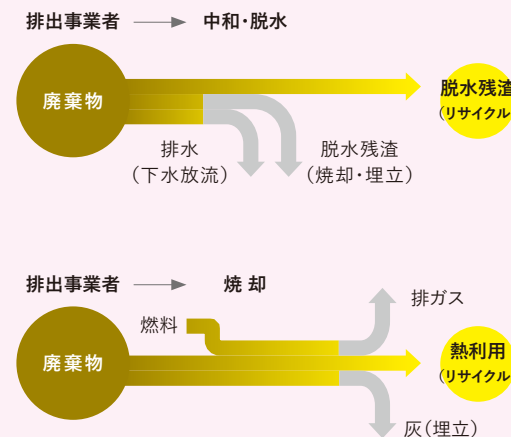
経常利益



RF事業での燃料化処理



一般的な産業廃棄物処理例



資源循環事業 SR事業

資源循環事業 RF事業

物流事業

メンテナンス事業

環境修復事業

再生可能エネルギー事業

オープンイノベーション事業

| RTT株式会社 | 株式会社レックス九州 |

物流事業

「静脈産業」と「動脈産業」をつなぐ
ネットワーク物流事業

関連する
SDGs



物流ネットワークのさらなる構築により CO₂排出削減を加速させる

廃棄物を資源循環させる「静脈産業」や、原料・製品・エネルギーを供給する「動脈産業」と荷主様をつなぐ物流事業を行っております。タンク車(トラック・トレーラ)を中心に、さまざまな車両を取り揃えるほか、日本各地に物流ネットワークを構築し、お客様の多種多様なニーズにお応えしています。

温室効果ガス(GHG)排出量の実質ゼロを目指す「カーボンニュートラル」の世界的潮流や社会的要求の高まりから、物流領域においても脱炭素経営へのシフトが求められています。脱炭素社会に向けた取り組みは責務であると認識し、自社の物流ネットワークの構造をオペレーションとハードの視点から施策検討し、「トレード(交換)」による協力輸送、次世代自動車の導入、燃費向上、積載効率向上、トラック待機時間削減、共同輸送など、具体的なCO₂削減へのアクションを実行していきます。

ステークホルダーの皆様とも協力しながら、サプライチェーン全体でのCO₂排出削減に取り組み、カーボンニュートラルな社会の実現へ向けて歩みを加速していきます。

TOPICS

2024年問題がすぐそばに

運送業界では、2024年4月から拘束時間が原則3,300時間/年、時間外労働960時間/年の上限規制が始まります。当社では、法改正を順守していくために、ドライバーに対して、業務中に無駄な時間はないか、休憩時間を取っているか等を何度も繰り返し指導しています。また、配車業務ではドライバーの拘束時間のバラツキを改善して均等に保つことで、既存の仕事をこなしています。さらに、新人ドライバーを増員し拘束時間を削減するために風通しの良い職場づくりに努めています。



社員の声

適正な運行管理で配車業務に努める

配車業務は運行管理の司令塔ともいべきポジションです。私は配車担当だけでなく現場を熟知している事でトラブルに対応する判断能力が求められます。プレッシャーがかかる反面、自分の采配が利益を左右する大変やりがいのある業務です。また、お客様やドライバーと直接コミュニケーションを取りながら、日々成長する機会として、お褒めの言葉やご意見をいただいています。今後も皆様に喜んで頂けるような配車業務を継続してまいります。



RTT株式会社
運行部
北村 秀一

資源循環事業 SR事業

資源循環事業 RF事業

物流事業

メンテナンス事業

環境修復事業

再生可能エネルギー事業

オープンイノベーション事業

| 株式会社レックス九州 | 株式会社レックス東北 |

メンテナンス事業

メンテナンスからリサイクルまでの ワンストップサービス

 関連する
SDGs


「安全第一」をモットーに多種多様な ニーズに沿えるメンテナンスサービスの提供

各種設備メンテナンス等の実績で培った知識・技術を活かして、お客様のご要望に沿ったメンテナンス方法を提案し、「安全第一」をモットーに施工しています。ケミカル石油製品などの各種タンクや配管、プラント設備の洗浄をメインに行っており、長年培ってきた経験から作業環境の改善や労務コストの削減にも努めています。

また、大型タンク内清掃や各種設備清掃時に発生する洗浄水等の廃棄物については、その時々 conditions に応じたより良いリサイクル方法や、処理方法をご提案するワンストップサービスも行っております。

業務実績

- ケミカルタンク清掃
- 原油・粗軽油・タール・重油タンク清掃
- 超高压洗浄工事
- 配管ピグ洗浄工事
- 化学プラントの触媒抜取・充填工事
- 超微粉体物の抜取工事
- 設備の補修・部品交換・更油 など

超高压洗浄車

株式会社レックス九州

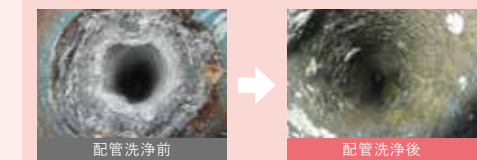
- 高圧…吐出圧力: 35Mpa・吐出量: 200L/min
- 超高压…吐出圧力: 78Mpa・吐出量: 78L/min

高圧・超高压切替式ポンプでタンク・ピットの内外壁剥離及び各種配管内のスケール除去洗浄を行っております。洗浄範囲や対象物の堆積量・硬さに応じた最適の高圧洗浄方法をお客様に提案します。特に海外メーカーから取り寄せた超高压仕様で回転速度の調整可能なスピノズルを使う事により、これまでより更に配管内の硬いスケールの除去も安定して行う事が出来るようになりました。



超高压洗浄車

洗浄ノズル



配管洗浄前

配管洗浄後

社員の声

お客様からの好評価がモチベーションに繋がります

入社して8年が経ち、今は現場の管理監督を任されています。メンテナンス事業部の仕事は各現場で、使用する治具や作業工程等が異なるため、作業リスクも違います。そのため現場管理が難しいですが、お客様から作業の好評価を頂いた時が仕事のモチベーションアップに繋がっています。工事に携わった方、全員が笑顔で終わるように、日々、管理していきます。


 株式会社レックス九州
メンテナンス事業部
河村 博史

資源循環事業 SR事業

資源循環事業 RF事業

物流事業

メンテナンス事業

環境修復事業

| リマテック=レックスグループ |

環境修復事業

グループの総合力で「暮らしと環境」を守る

関連する
SDGs



総合力を活かした環境修復スキームで 安心・安全な生活を取り戻す

日本各地で不法投棄された産業廃棄物や海難事故による原油流出、大規模な地震・洪水等で発生した災害廃棄物などのさまざまな災害廃棄物処理を行ってきました。これまでの経験や実績、ノウハウを基に、廃棄物の運搬・分析・高精度選別・再資源化までの一貫した処理スキームを構築し、グループの総合力により提案・施工を行います。

また、お客様の廃棄物処理に関する課題に対して、環境負荷低減と経済性改善が可能となる「廃棄物処理プラン」をご提案し、企画・設計・施工・許認可取得・施設試運転・施設運転管理を含めた支援を行うことで、お客様の課題解決はもちろんのこと、自然豊かな地球環境と持続可能な社会を構築し、循環型社会・サーキュラーエコノミー実現へのサポートも行っています。施設試運転～運転管理では「社員の暗黙知」による業務品質のバラつきが懸念されますが、ナレッジ共有システムの活用、さまざまな施設運転管理経験者によるOff-JT研修を活用することによって、業務品質の均一化を可能としています。



社員の声

チャレンジ精神で環境保全に取り組む

2022年12月より、環境浄化PJにおける施設試運転～運転管理業務をレックス東北・レックス・協力会社と協業にて実施しています。

施設運転管理業務は24時間3交代シフト制となり、施設を安全かつ安定稼働させるために、各班の引継ぎ時の申し送りを徹底し、作業者間のコミュニケーションを密にしています。また、運転中の機器トラブルが発生しないよう、モニター監視や施設の巡回点検、定期メンテナンスを実施して小さな変化も見逃さないように心掛けています。

PJ開始当初は、業務中に感じた違和感や気付き等、気心の知れたメンバーのみで共有していたことが原因で小さなトラブルが発生していました。このままでは大きなトラブルが発生しかねないと思い、情報共有とコミュニケーション強化を目的とした取り組みに注力し、班長と班員で各々の足りない情報を補い正確な情報として整理し、各班と共有することで申し送り内容の情報量と正確性を向上させることができました。その結果、情報共有不足によるトラブルもなくなり、私を含め全員のコミュニケーションが活発となり、施設安定稼働を継続しています。今まで経験したことのない業務ですが、コミュニケーションの大切さを再認識するとともに、これまでの知識や経験を生かして新しいことに挑戦しています。



株式会社レックス東北
環境浄化PJ責任者
上野 善治

資源循環事業 SR事業

資源循環事業 RF事業

物流事業

メンテナンス事業

環境修復事業

| リマテック=レックスグループ |

再生可能 エネルギー事業

太陽光発電で社会的課題の解決に挑戦

関連する
SDGs



再生可能エネルギー事業

オープンイノベーション事業

使用電力100%の再生可能エネルギー化を目指し、 脱炭素社会の実現へ

当社は、脱炭素社会の実現に向けて、固定価格買取制度を活用した再生可能エネルギー事業を積極的に推進しています。国内4か所に設置した太陽光発電所は、合計で6.5MWの発電出力を有し、2022年度の年間発電電力量は約917万kWh。これは当社の同年度の電力消費量の約3.0倍に相当します。

太陽光発電は発電時に温室効果ガスを排出しないクリーンな発電方式ですが、天候による発電出力の変動が大きく電力システムの安定性に影響を与えるという課題があります。当社では、電力システムを管理する送配電事業者が当社発電所の発電出力を必要に応じて直接調整できるよう、昨年11月までに全ての発電所にオンライン出力制御のための機器を導入しました。また、太陽光発電所の主要機器であるパワーコンディショナー（太陽光パネルから生み出される直流の電力を送電線に流れている交流の電力に変換するための機器）を変換効率が良く消費電力の少ない新機種に更新するなど、稼働率向上に向けた設備の改善にも継続して取り組んでいます。

「再生可能エネルギー発電事業」においても課題の解決に努めつつ継続的に環境価値を提供することで、脱炭素社会の実現に向けて貢献していきます。

リマテック=レックスグループの太陽光発電所



熊本発電所



岡山発電所



鹿児島発電所



鹿児島第二発電所

資源循環事業 SR事業

資源循環事業 RF事業

物流事業

メンテナンス事業

環境修復事業

再生可能エネルギー事業

オープンイノベーション事業

| リマテック=レックスグループ |

オープン イノベーション事業

既存の枠にとらわれないイノベーションの創出

関連する
SDGs



「持続可能な社会」の構築・地域との共存共栄を図る

リマテックグループの技術力と豊富な実績・長年培ったノウハウ、レックスグループがもつ廃棄物マネジメントに対する確かな知見と物流ネットワークにより、お客様の抱えるさまざまな課題を解決し、環境分野全般におけるコンサルティング、プラント設計/施工、技術開発、現場管理などのサービスを提供しています。また、グループ外からも幅広く技術やノウハウ、アイデアなどのあらゆるリソースを取り入れ、グループだけでは生み出せない新たな価値の創出とサービスの提供も行っています。

国や地域の将来を見据え、ますます高度・多様化する社会的課題に柔軟に取り組み、より良い社会環境づくりに貢献してまいります。

OPEN INNOVATION



社員の声

ものづくりプロジェクトを通して 未利用資源の活用を目指す

私は、産業廃棄物に関わる業務に携わり6年が経ちました。営業の業務では、グループ会社を含め、適正処理を提案することが主な業務です。産業廃棄物の処理プロセスを理解するにつれて、社会全体に未利用資源が存在することに気がきました。単体企業では、その価値を見出すことに限界があることも活動を通じ感じておりました。OZCaF「ものづくりプロジェクト」では、プロセス把握を入念に行い、会員企業と新たなプラットフォームを構築し、未利用資源の活用を目指しています。



株式会社レックス
営業本部 営業部
営業課 課長
笠原 滉平

オープンイノベーション事業

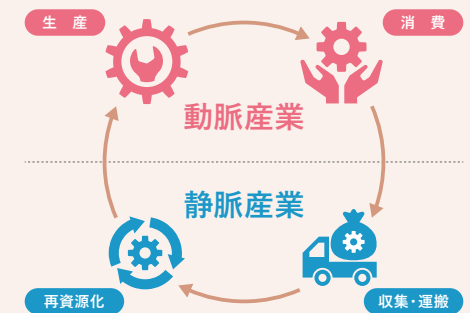
TOPICS ものづくりプロジェクト ~サプライチェーン全体での環境負荷低減を目指して~

持続可能な未来への架け橋 ~静脈産業と動脈産業のプラットフォーム~

持続可能な社会を目指すためには、脱炭素社会の実現を目指したGHG排出量削減だけでなく、資源を循環利用しながら、新たな付加価値を生み出し続けていく資源循環型経済社会の実現も重要となってきます。

持続可能な社会を実現していくためには、企業毎の取り組みだけでなく、サプライチェーン全体で協調した経済プラットフォームの構築が有効です。

レックスは、2023年7月に開催されたOZCaF設立2周年記念フォーラムにおいて、静脈産業と動脈産業が連携することによる、新たな地域内産業クラスター形成を目指した「ものづくりプロジェクト」を提唱しました。今後さらに企業間の連携体制を強化して、資源循環経済実現を推進することで持続可能な未来への架け橋となるべく活動を展開していきます。



【テーマ】コーヒー殻を活用した“ものづくり”

【事例①】コーヒー殻を床材原料に活用し、環境負荷を低減

国内のコーヒー消費量は年間約40万トンに及んでいます。その際に約20%程度のコーヒー殻が発生するため、コーヒー殻は推定約8万トンが発生しています。

コーヒー殻はそのまま放置すると、腐敗して温室効果ガスを放出します。また含水率が高く焼却するには多くのエネルギーを必要とします。未処理で土中に埋設すると、残留するカフェイン成分等によって植物の生育を阻害するようになります。これらのコーヒー殻の一部は農業用資材、堆肥、肥料などに再利用されていますが、ほとんどが焼却処分されているのが現状です。

そこで、レックスでは飲料会社で排出されるコーヒー殻を原料加工会社を介して樹脂会社に提供するプロジェクトを進めています。

このプロジェクトでは、コーヒー殻を床材の原材料として活用することで、天然資源の削減と環境負荷の低減を図ります。

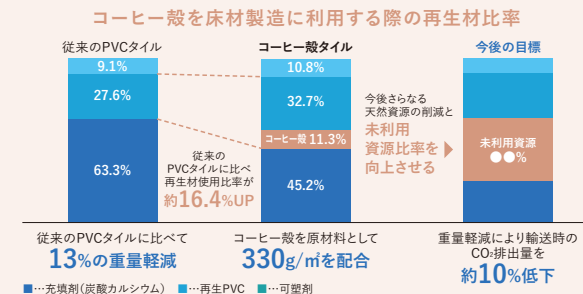


更に各企業間のマッチングを行い、静脈産業と動脈産業の連携としてコーヒー殻の再利用を床材製造原料とすることで新たな産業クラスター形成を行います。

樹脂会社の試作生産では床材の原料のPVCの一部をコーヒー殻に置換することで、床材製品の再生材料使用率を約16.4%上昇させ、従来のPVCタイルを約13%重量軽減することができました。

この試作品の実用化に向けて実際に床材を使用し、商品化に向けた動きを進めています。

今後は、コーヒー殻その他の未利用資源の有効活用を推し進め、天然資源の削減と重量軽減により輸送時のCO₂排出量を約10%低減することを目指しています。



【事例②】コーヒー殻由来のバイオ炭でSDGsバッジを製作

コーヒー殻を用いて環境性能を高めた樹脂の研究開発を行っています。コーヒー殻を原料にバイオ炭を生成し、生分解性ポリマーと混合して原料ペレットを製造しました。この原料ペレットを射出成型によってバッジベース板を製造し、SDGsイメージ図をクリア樹脂で加工してオリジナルSDGsバッジを試作しました。

このバッジは、コーヒー殻という廃棄物を有効活用することで、環境負荷の低減に貢献するものです。また、生分解性ポリマーを使用することで、環境に配慮した製品となっています。

今後も今までは廃棄物として処分されていたコーヒー殻のような素材に着目し、再利用することで新たな資源循環を構築する試みを継続したいと考えています。



オープンイノベーション事業

産業廃棄物から高純度水素を製造 ～カーボンニュートラルへの挑戦～

株式会社レックス九州

レックス九州は、2013年に廃棄物として受け入れた金属粉末混入物と廃油の混合物から発生した水素ガスが原因で、爆発火災事故を起こした苦い経験があります。その時の教訓を基に、徹底した安全・品質管理のもと、産業廃棄物の中間処理工程で発生する可燃性ガスをクリーンエネルギーに再生し、無駄なく活用できないか、また、地球温暖化対策に繋がる活動にできないかと考え、5年前から金属を含む産業廃棄物と、廃アルカリ溶液を混合した時に発生する副生水素ガスを回収し、高純度の水素ガスを精製・貯蔵する装置の

研究開発に、大分県エネルギー産業企業会の支援もいただき取り組んでいます。

2023年度の事業としては、小規模反応炉2基で副生水素ガスを生成・除湿後に高純度水素ガス(99.999%)を製造する試作3号機製作と、実用化に向けた各種検証試験を行っています。また、各種課題を乗り越えるため、新たな地場企業との連携も図りながら、グリーン水素の製造プラントを完成させ、2030年代には弊社の廃棄物中間処理設備で使用する一部の電力を、再生可能エネルギーで賄える体制の確立を目指しています。



開発中の実験プラント

脱炭素実現に向けて 続ける挑戦

株式会社バックキャストテクノロジー総合研究所

私達はCO₂排出量の把握を脱炭素社会の実現のための第一歩と捉えています。そこで、持続可能な未来を共に創造するパートナーシップを広げていくために、セミナーやイベントを通じてその重要性やアプローチ方法を伝えています。

また、2021年にリリースしたCO₂排出量可視化ツールをさらに進化させ、使いやすさ、見やすさ、わかりやすさといった実際に使用するお客様の視点に重点をおいたツール「ファストカーボン」を新たに開発し、2023年7月に提供を開始しました。会計情報だけからCO₂排出量を算定可能^{※1}とする革新的なメソッドはそのまま、使い勝手を一層向上させたことで手間をかけずに楽々とCO₂排出量を把握でき、わかりやすいインターフェースも特徴です。さらに、スコープ1、スコープ2だけでなく、スコープ3^{※2}までカバーしているので、



全体像の理解とCO₂排出量の削減を進めることができます。また、CO₂排出量を簡易に、しかも正確に計算し、その結果に基づいた具体的な削減行動に活かすことで、脱炭素社会の実現に貢献していくことが可能になります。

私達は、これからも徹底的にステークホルダーの立場で考え、脱炭素で誰も置き去りにしないカーボンゼロの未来を目指して、地球と人の共生のために挑み続けてまいります。

※1: 物量データからの算定も可能 ※2: スコープ3は上流部分(カテゴリー1~8)のみ

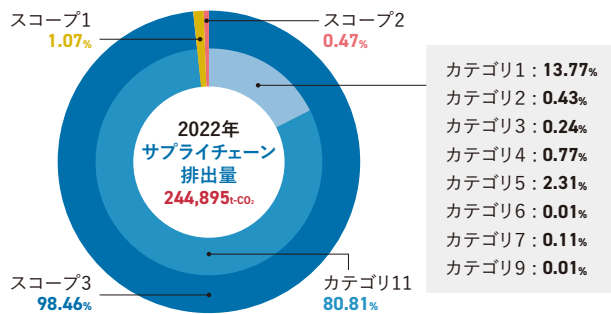


環境 Environment | 脱炭素社会に貢献

温室効果ガス“ネットゼロ”に向けた進捗

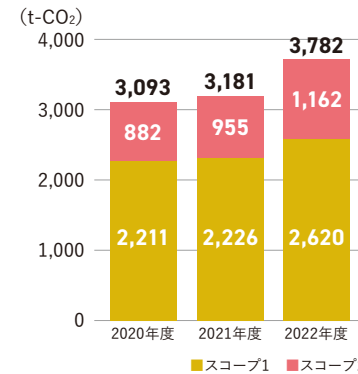
リマテック=レックスグループは、持続可能な脱炭素社会に貢献し、2050年の温室効果ガス排出量ネットゼロに向けて取り組んでいます。2022年度は組織再編により、レックスSRを含む9社のグループとなりました(P.11)。SR事業(P.15、P.16)が新たに事業領域に加わったことにより、スコープ1、2において2021年度よりも増加となりました。

●2022年度 スコープにおけるCO₂排出量の割合



スコープ1: 事業者自らによる温室効果ガスの直接排出(燃料の燃焼、工業プロセス)
 スコープ2: 他社から供給された電気、熱・蒸気の使用に伴う間接排出
 スコープ3: スコープ1、スコープ2以外の間接排出(事業者の活動に関連する他社の排出)

●事業活動におけるCO₂排出量 (スコープ1、2)の推移



INPUT	リマテックG	OUTPUT
スコープ3 その他の間接排出 カテゴリー1 購入した製品・サービス 33,715t-CO ₂ カテゴリー2 資本財 1,049t-CO ₂ カテゴリー3 スコープ1に含まれない燃料およびエネルギー関連活動 600t-CO ₂ カテゴリー4 購入した製品・サービス 1,885t-CO ₂	スコープ1 直接排出 2,620t-CO ₂ スコープ2 エネルギー起源の間接排出 1,162t-CO ₂ スコープ3 その他の間接排出 カテゴリー6 出張 27t-CO ₂ カテゴリー7 雇用者の通勤 274t-CO ₂	スコープ3 その他の間接排出 カテゴリー5 事業から出る廃棄物 5,651t-CO ₂ カテゴリー9 輸送・配送(下流) 15t-CO ₂ カテゴリー11 販売した製品の使用 197,897t-CO ₂

※2021年度より下記データベースを用いて算出しています。
 ◎ガイドライン: サプライチェーンを通じた温室効果ガス排出量算定に関する基本ガイドライン(Ver.2.4)2022年3月環境省・経済産業省
 ◎CO₂排出原単位データベース: サプライチェーンを通じた組織の温室効果ガス排出等の算定のための排出原単位データベース(Ver.3.2)およびLCIデータベースIDEAv2.3(サプライチェーン温室効果ガス排出量算定用)

“エコ・ファーストの約束”への取り組み

リマテック=レックスグループは、地球温暖化対策、廃棄物・リサイクル対策などの自らの環境保全に関する取り組みを約束し、環境の分野において「先進的、独自のでかつ業界をリードする事業活動」を行っている「エコ・ファースト企業」として環境大臣に認定されています(2019年6月更新)。



約束 1 循環型社会の形成に向けた取り組みを積極的に推進します

- ▶ 産業廃棄物のリサイクル率97%以上を維持
- ▶ 再生燃料化できる産業廃棄物を増やすための研究を進める

実績 リサイクル率 **98.9%** (研究活動状況はP.24、P.25参照)

97%以上維持

約束 2 地球温暖化の防止に向けた取り組みを積極的に推進します

- ▶ 再生燃料(RF)の出荷を2024年まで現状より5%アップ
- ▶ CO₂排出量(スコープ1、2)を2030年までに2017年度比で20%削減、2050年までに49%削減

実績 CO₂排出量 **3,113t-CO₂** (SCOPE1-2) (2017年度比14.6%減)

※旧リマテックグループ6社合計(P.12参照)
 (RF出荷量の状況はP.31参照)

約束 3 持続可能な脱炭素社会への貢献を目指します

- ▶ 太陽光発電施設の効率的な発電量の維持

実績 発電量 **9,174千kWh**

発電量維持

約束 4 社員への環境教育・啓発活動を積極的に実施します

- ▶ 環境関連の情報・知識の習得、および従業員の環境社会貢献活動への参加支援

各社で実施済

(教育実施状況はP.27、P.28を参照)

アクション

Action | ステークホルダーとともに



森林環境保全活動の協力 (カーボン・オフセット)



地球温暖化対策による温室効果ガス排出量の削減に向けたさまざまな取り組みのなかで、レックス東北では、事業で排出しているCO₂のオフセット及び岩手県の持続可能な森林経営の推進に寄与するため計画的に伐採された県有林のJ-クレジットを購入し、県内の育成林の適正な管理や環境保全活動を支援しています。



Re:CS東北

おおいたグリーン事業者 認証制度



「おおいたグリーン事業者認証制度」で、脱炭素部門の認証第1号をいただきました。この制度は、大分県が認証した事業者の取り組みを支援することにより、CO₂削減・プラスチック削減の促進に寄与することを目的としています。認証に恥じぬよう、これからもCO₂削減に取り組んでいきます。



Re:CS九州

脱炭素/DXイベントへの 出展・登壇



バックキャストテクノロジー総合研究所は、2023年10月開催「カーボンニュートラル・チャレンジフェア」にファストカーボンを出展しました。また、2023年11月東京都主催の「DX社会実装プロジェクト～DX Startup Pitch～」のスタートアップ企業5社に抜擢され登壇しました。CO₂排出量可視化への関心も高く、会計データで可視化できるユニークさに高評価をいただきました。



Backcasting Technology

大学との連携による カーボンフットプリント調査



2021年の「岸和田だんじり祭りのカーボンフットプリント」の算定・分析に引き続き、岸和田市のご協力のもと、東京都市大学とOZCaFの共同で、岸和田市で開催された「第1回竹まつり」の算定・分析を行いました。算定結果については岸和田市長にも報告を行い、イベントにおける脱炭素化について意見交換を行いました。



REMATEC HOLDINGS
REMATEC R&D

脱炭素化に向けた取り組み



大阪府の脱炭素経営宣言登録制度に登録いたしました。脱炭素化に向けて、まずは事務所や工場などの照明を、より省電力で年間CO₂排出量が削減できるLED照明に入れ替えました。今後も環境負荷の少ない設備への入替や導入など持続可能な社会の実現に向けて少しずつ取り組みを進めてまいります。



REMATEC HOLDINGS
REMATEC R&D
Re:CSSR
Re:CSRF
Re:CS

さんぱいフォーラム2023登壇



2023年11月に開催された、公益社団法人 大阪府産業資源循環協会主催「さんぱいフォーラム2023」に登壇し、災害廃棄物処理において、当グループが大切にしている「地元に寄り添う気持ち」について事例発表を行いました。阪神淡路大震災復興支援から28年が経過し、災害廃棄物に関するスキーム構築や処理方法、復興支援策などは大きく変化しましたが、被災地の方々が抱える悩みは年月を経ても変わることはありません。



Re:CS

アクション Action



…環境



…社会

海ごみゼロイベント参加



年々増加し続けている海洋ごみ対策を目的とした環境整備活動に2022年10月、2023年は5月と10月に参加しました。岩手県が主催した「春の海ごみゼロウィーク キックオフイベント」では、参加者全員でみちのく潮風トレイルのルートでもある碓石海岸の浜に打ち上げられた漂流ゴミや放置されている漁具、遊歩道に落ちているペットボトルや空き缶などのゴミを回収しました。



Re:CS東北

大分県異業種連携企業会
永年会員表彰

令和4年11月11日、大分県異業種連携企業会(豊信会)の設立40周年記念祝賀会にて、永年会員表彰をいただきました。これからも異業種連携を通じて県経済の発展に貢献して参ります。



Re:CS九州

従業員みんなで
未来ビジョンを描く

バックキャストテクノロジー総合研究所では、未来社会における我々のありたい姿をMission・Visionとして規定し、それを具現化するための必要条件としてValue・Credoを定めました。従業員全員が制作に関わり、お客様やパートナーの視点も取り入れながら、活発な議論を経て、我々の存在意義と目指す姿を具体的な言葉で表現することができました。

BCT MISSION		
地球と人の共生のために、 挑みつづける		
BCT VISION		
脱炭素で 誰も置き去りにしない		
BCT 11 WAYS	Everyone an Expert	Impress The Customer
Be Innovative	Take Ownership	Love Your Business
Customer, Customer, Customer	Repeat PDCA	Ally And Solve
Communication First	Change And Challenge	Do It Right

Backcasting Technology

国道花壇 冬の植栽



令和4年11月25日、社員一同で国道502号線沿いの花壇に、チューリップやピオラなどを植栽しました。コロナ禍で、残念ながら今年も地域の「生き生き部会」の皆様の参加は見送りとなりました。毎年、春には国道沿いを華やかに彩ります。



Re:CS九州

事故を起こさない
「気持ち」を育てる

事故の多くの原因は「気持ち」にあると考えています。添乗指導では、やってみせ、コツを聞かせて、させてみせることで、手順書では表現できない感覚を学んでいます。運転や作業行動を事故防止の観点だけで観察するのではなく、より良い行動を言葉で伝え自覚させ、その行動をさらに発揮できる「輝く場」をつくり自信を持たせています。



RTT

植樹祭への参加



大阪湾に広がる産業廃棄物処分場跡地「堺第7-3区」では、「生物多様性」創出の取り組みとして植樹、草刈り、調査などの活動が行われています。大阪府主催(公社)大阪自然環境保全協会・NPO法人共生の森が運営している2022年度「共生の森 植樹祭」に参加し、ヤマザクラ、イロハモミジ、コナラなど9種の苗木の植樹を行いました。



 REMATEC
R&D

ガバナンス Governance | リマテック=レックスグループのガバナンス

基本的な考え方

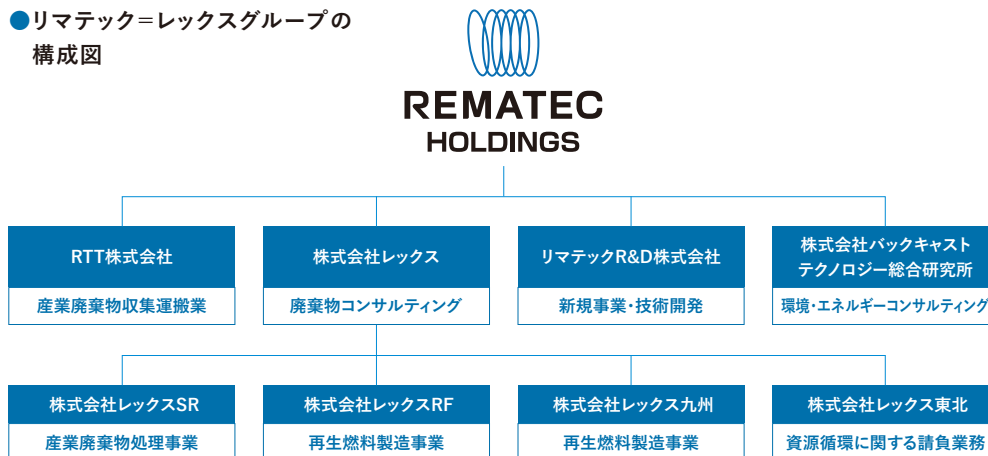
- 1 グループ全体がその社会的責任を果たしつつ、継続的な企業価値向上を図るため、コーポレートガバナンスの充実を経営上の重要課題として認識します。
- 2 社会的課題解決や循環型経済実現に向けた企業価値向上には、全てのステークホルダーとの協力が不可欠と認識し、良好な関係構築に努めます。
- 3 グループ情報の開示については、法令等に基づくものだけでなく、事業活動全体を含めた幅広い情報を迅速かつ正確に開示することに努めます。

リマテック=レックスグループのマネジメント体制

リマテック=レックスグループは急速な社会環境変化に対応する経営体制を構築すべく、2014年より持株会社制に移行しました。これにより事業子会社への権限移譲を推進し、意思決定の機動性を高めています。また、全体の経営と個別事業執行との役割分担を明確にすることにも努めています。

一方、グループ全体としての事業価値や業績向上、あるいは事故や不祥事等の防止の観点から、持株会社であるリマテックホールディングスは、グループ全体を統括する権限として、予算管理・内部監査・グループ広報などの機能を有しています。

●リマテック=レックスグループの構成図



バリューチェーンに応じた会社構成

コンプライアンスポリシー

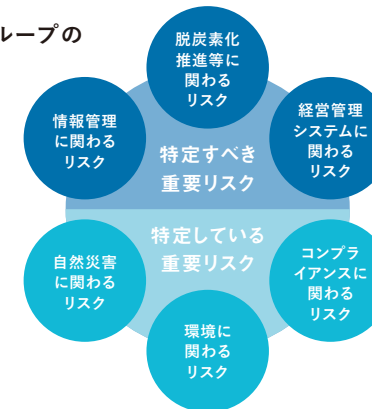
リマテック=レックスグループでは、企業活動においてステークホルダーとの関係は極めて重要かつ尊重すべきものであり、法令遵守は社会的責務であると認識しております。法令や定款・社内規程はもとより、社会規範を遵守することを実現するためにコンプライアンスポリシーを制定し、役員および従業員の意識向上とコンプライアンス体制の整備を図ってまいります。

リスクマネジメント

リマテック=レックスグループでは、これまで企業活動に伴うリスクマネジメントに取り組んできました。再生燃料製造事業や運送・収運事業、あるいは資源循環請負事業などを中心として、環境マネジメントシステム(ISO14001:2015)や労働安全衛生マネジメントシステム(ISO45001)を活用し、継続して安全衛生管理を進めることで、労働災害防止、従業員の健康増進を図り、より快適な職場環境を整備してまいりました。また、万一の緊急事態における事業継続性を高めるために事業継続計画(BCP)の策定なども行ってまいりました。

しかし、社会課題の複雑化やグループ事業の多様化が進む中で、企業活動におけるリスクは、これまでに特定してきたリスク(自然災害に関わるリスク・環境に関わるリスク・コンプライアンス(労働安全衛生や関係法令等)に関わるリスクなど)だけでなく、新たなリスク(脱炭素社会やSDGs対応に関わるリスク・情報管理に関わるリスク・グループ経営管理システムに関わるリスクなど)についても、これまでと同様に重要リスクの特定を進め、優先度の高い項目については、主管部門を定め、方針や目標を立ててリスクマネジメントを進めていきます。

●リマテック=レックスグループのリスクマネジメント



第三者意見

2023年度のレポートは、リマテック=レックスグループとして初めてのレポートと言うことで、長年このレポートを見てきた私も新たな気持ちで拝見しましたが、組織再編や社名変更に伴い、新たな事業領域が加わり取り組みも増えたと同時に、チャレンジすべき内容も増えたように感じました。

冒頭の社長コメントでは、ますます複雑化、複合化していく社会的課題に対して、創業者から引き継がれたDNAともいえるチャレンジ精神をもって積極的に取り組んでいくという思いも込め、新たなグループが実施する事業を「“幸”循環未来創造業」と定義しています。組織や社名の変更がどう影響するのか、若干の不安も感じていましたが、これまでの経営理念や方向性などを踏まえ、イノベーションの創出というミッションを継続・発展させることも確認でき、一安心した次第です。

また脱炭素経営に向けて、SR事業も加わり、グループの長期ビジョン実現に向け、企業活動の脱炭素化とオープンイノベーションによる新たな価値創造で課題解決に取り組むなど新たな挑戦も始まったことに加え、従来からの再エネ事業では自社の電力消費量の約3倍を発電するなど、ますます深刻化する気候危機への対応にも継続的に前向きに取り組む姿勢も頼もしく思います。

さらに、事業ごとの社員の声が今年は復活し、現場での仕事ぶりがよく伝わる「声」の内容で、それぞれが与えられた仕事に真摯に取り組んでいる「現場力」がよく理解できました。

一方、資源循環が事業の基本としつつ、「気候変動対策は経営の最重点項目」として先駆的に脱炭素に取り組んできた貴グループですが、気になる点がいくつかあります。

第一は、情報源がやや限定的ではないかという点です。現在、日本政府は、2050年ゼロエミッションに向け2030年の削減目標を46%（2013年比）としています。しかし、国別の削減目標とパリ協定の整合性を評価する多くの研究は、日本の2030年の削減目標は不十分であるとし、「1.5°C目標達成には日本は2030年までに少なくとも62%削減（2013年度比）が必要」とする研究（Climate Action Tracker）や、「先進国は2035年のCO₂排出を80%削減（2020年比）する必要あり」とする国際エネルギー機関（IEA）の報告もあります。またGXに関してもパリ協定やG7合意との整合性がなく、資金の動きも含め様々な疑問も指摘されています。こうしたことから政府情報だけに依拠するのではなく、気候危機に真摯に取り組む国内外の研究者や私たちNPOにも情報源を広げ、常に科学的に正しい情報に基づく先駆的な挑戦を続けてほしいと思います。貴グループの2030年2013年比58%削減は政府目標よりは高い設定ですが、世界の動きからみれば、十分とは言えない面もあります。

第二にそうした観点から見て、新規・従来事業ともに、脱炭素にどの程度貢献できているかの再点検とその見える化が必要ではないかという点です。

例えば、9社グループになったことでCO₂排出量は増加しており、これをどう削減していくかは今後の大きな課題です。特にSR事業やオープンイノベーション事例にあるコーヒー殻の再利用などは、資源の有効利用としては優れた事

業ですが、プラスチックが石油由来であることやコーヒーの原産地が海外であることなど考えると、これらの事業をLCAでみた場合どの程度脱炭素に役立つのかがまだ見えてきません。資源循環事業をベースに置いた貴グループですが、こうしたことにも真摯に対応していくことが求められる時代になったことを認識し、できれば昨年示されたRF事業同様にSR事業によるCO₂削減効果の見える化をはじめ、今後のオープンイノベーションにおいてもこうしたことにも確に対応できる価値の創造とその実現に期待したいところです。

三目点として、初めて登場したSR事業についての説明が不足していること、再生可能エネルギー事業については気象災害が多発する中でその対応についての記載がないこと、エコ・ファーストの約束4／社員への環境教育・普及啓発については以前と比べて内容も量も減少していることなども気になる点です。

その他、活動報告データについても、レックスRFで軽油使用量の大幅削減など成果が見られるものの、各社で不十分な点も見られ、特に安全衛生活動の×については重大事故につながる可能性もあることから、件数だけでなく災害・事故の理由・原因も記載することで、その内容共有と改善促進につなげることも必要かと思えます。

来年は近畿環境興産として成立して以来50周年とのことですが、ますます深刻化する気候危機への対応、それに伴う産業構造の変化や人々の働き方の転換も進むなど、社会全体の大変革が予想されます。そうした中であって、新たなグループとしての価値をどう具体化し、グループ全体で

共有し、事業の中で実現していくか？ 多様な価値を有する他社とのオープンイノベーションでどのような価値がつけられ実現されるか？ 脱炭素に向け、より科学的で次世代も見据えた事業が展開できるか等々、やるべきことは山積みみです。

50周年を前に困難な課題をいろいろと指摘しましたが、トップメッセージにあるように、引き継がれてきたDNAを忘れず、地に足をつけた歩みを進め、新たな未来を創るという思いで、誠実な挑戦を続けられれば、必ず成し得ると信じ、期待しています。



認定NPO法人
環境文明21代表
藤村 コノエ 氏

〈プロフィール〉
大分県別府市出身。東京工業大学大学院博士後期課程修了。学術博士。中央環境審議会委員。

環境コンサルタント等を経て平成2年会社設立。環境教育のパイオニアとして、環境学習に関する調査研究、人材育成などの事業、市民や企業に対して講演を行うほか、NPOの代表として、環境・経済・人間社会のバランスの取れた環境文明社会の構築に向け、環境倫理、消費やグリーン経済、市民社会について研究を進めつつ活動を展開している。

第三者意見を受けて

藤村様には今年も貴重なご意見を賜り、深甚の感謝を申し上げます。

リマテック=レックスグループとして初のレポートと言うことで、グループの組織や業務全般について網羅的に構成するようにいたしました。また、昨年のご意見をふまえ、社員自身の言葉を読者にお伝えできるように工夫したつもりです。

また、藤村様には脱炭素経営を目指す上で示唆に富んだご助言をいただけたことも大変有難く、今後以下のように改善していければと考えております。

まず、「情報源が限定的」とのご指摘についてですが、GXリーグはGHG削減を経済成長の機会とする取り組みとする考え方に、幣グループとしても積極的に参加しようとする取り組みです。しかし、あくまで我が国の達成目標が軸となっており、ご指摘の通り世界標準としては不十分と言えるかと存じます。より広い視点から幣グループの脱炭素経営を考えていきたいと思えます。

次に、幣グループの「事業の脱炭素化にむけた貢献とその可視化が必要」とのご指摘についてですが、今後はSR事業や新規事業においてもRF事業と同様に、具体的な脱炭

素効果の算定を目指したいと思えます。幸い、別の取り組みにおいてイベント等のカーボンフットプリント算定などにも携わらせていただいておりますので、そうした経験も活かしたいと考えます。

続いて「SR事業を始めとして説明が不足していること」についてですが、従前より事業や取り組みの幅を広げることを優先したために、記述の密度が薄くなってしまったと反省する次第です。

また、安全衛生活動の評価が低くなっている点については、我々としても喫緊の経営課題と認識しており、今年度より経営者会議にて全社間の安全衛生タスクチームを発足し、重要プロジェクトとして位置づけました。

2024年度は幣グループ創立50周年を迎えますので、グループ一丸となってこれからもさらなる高みを目指しつつ、初心に帰って資源循環と気候変動対応という難しい社会課題にチャレンジしてまいります。

株式会社レックス 代表取締役社長
塩見 頼彦



〈編集後記〉

本年のサステナビリティレポートは、リマテック=レックスグループとして初めての発行になります。当グループの活動と取り組みについてステークホルダーの皆さまにわかりやすく知っていただくことを目指しました。ご一読の際は、ぜひ忌憚のないご意見をお聞かせください。レポートに携わって頂いた方々、ステークホルダーの皆さまにこの場をお借りして感謝申し上げます。

【免責事項】 報告対象期間／2022年4月1日～2023年3月31日（一部の取り組みに関して最新のものと記載） 報告対象組織／リマテック=レックスグループ 報告書発行日／2023年12月 情報開示体系／このレポートは、リマテック=レックスグループの活動とその取り組みを報告しています。また、ホームページでは各社の事業紹介や活動を更新していますので、ぜひご覧ください。 <https://www.rematec.co.jp/> <https://re-cs.co.jp/> 参考ガイドライン／GRI「サステナビリティレポートガイドライン2021」、環境省「環境報告ガイドライン2018」、「地球温暖化対策地域推進計画策定ガイドライン」本レポートに関するお問い合わせ先 リマテックホールディングス株式会社 〒596-0015 大阪府岸和田市地蔵浜町11番地の1 tel. 072-438-4146 fax. 072-422-3809

▶ データ集 ◀

DATA RF事業における環境パフォーマンスデータ

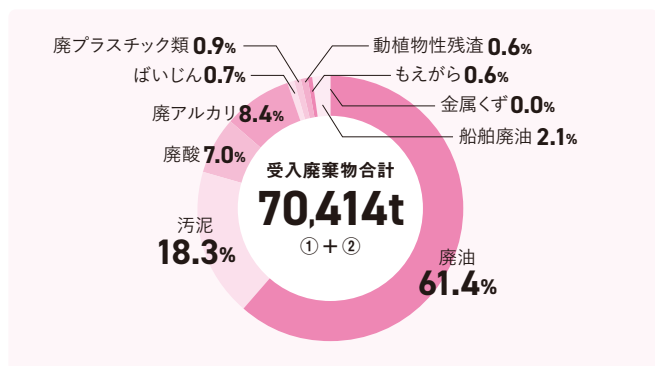
●対象/レックスRF、レックス九州 ●集計期間/2022年4月1日～2023年3月31日

INPUT

資源	合計	レックスRF	レックス九州
ガソリン(kL)	21	2	19
プロパン(m)	264	78	186
軽油(kL)	46	22	24
A重油(kL)	84	0	84
灯油(kL)	0	0	0
電力(kWh)	2,311,618	754,482	1,557,136
工業用水(m ³)	7,049	7,049	0
アセチレン(t)	0	0	0

RF製造原料

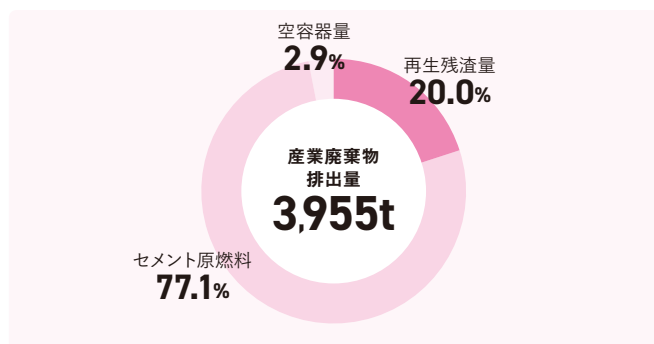
	合計	レックスRF	レックス九州
①産業廃棄物(t)	68,930	35,415	33,515
廃油	43,193	26,115	17,078
汚泥	12,861	1,199	11,662
廃酸	4,889	3,007	1,882
廃アルカリ	5,922	4,329	1,593
ばいじん	511	173	338
廃プラスチック類	650	592	58
動植物性残渣	450	0	450
もえがら	454	0	454
金属くず	0	0	0
②船舶廃油(t)	1,484	0	1,484
③原材料(t)	24,034	6,765	17,269
再生燃料	24,034	6,765	17,269



収集運搬業務	合計	レックス九州	RTT大阪支社	RTT九州支社
軽油使用量(kL)	609.6	192.7	202.2	214.7
ガソリン使用量(kL)	4.5	0.0	3.0	1.5

OUTPUT

	合計	レックスRF	レックス九州
CO₂排出量(t-CO₂)	1,223	294	929
RF出荷量(t)	86,777	36,996	49,781
産業廃棄物排出量(t)	3,955	3,601	354
再生残渣量	792	521	271
セメント原燃料	3,051	3,051	0
空容器量	112	29	83
廃プラスチック類	110	27	83
金属くず	0	0	0
木くず	2	2	0
紙くず	0	0	0
がれき類	0	0	0
繊維くず	0	0	0
ガラスくず	0	0	0
有価金属くず(t)	1,167	741	426
有価廃プラ(t)	12	12	0



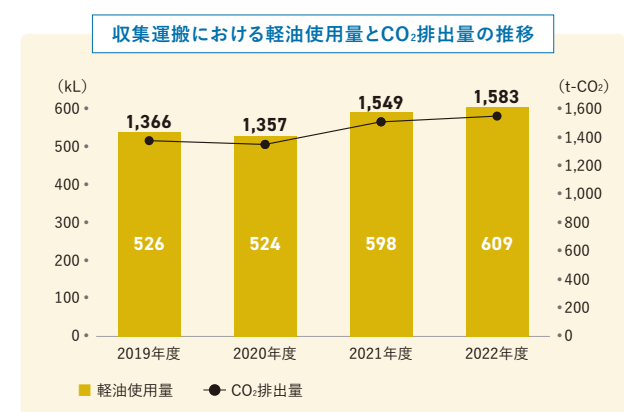
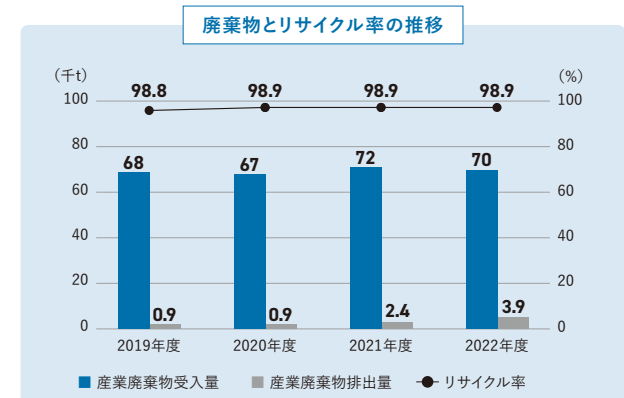
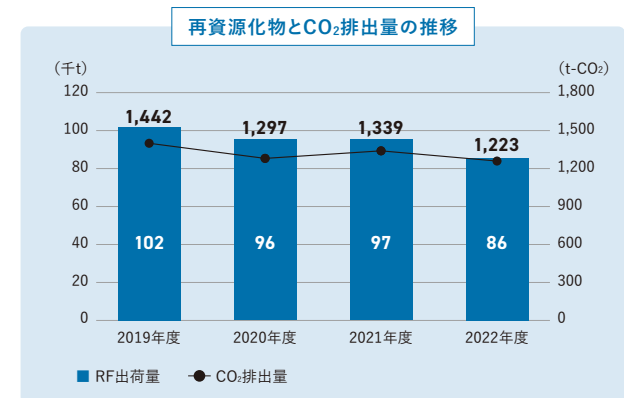
	合計	大阪工場	九州工場
リサイクル率(%)	98.9	98.6	99.2

リサイクル率の計算式

$$\text{リサイクル率} = \frac{(\text{受入廃棄物量} - \text{空容器量}) - \text{再生残渣量}}{\text{受入廃棄物量} - \text{空容器量}} \times 100$$

収集運搬業務	合計	レックス九州	RTT大阪支社	RTT九州支社
CO ₂ 排出量(t-CO ₂)	1,583	497	529	557

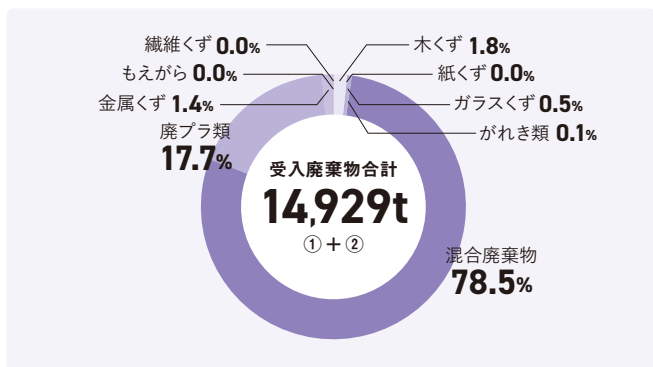
Annual changes



DATA SR事業における環境パフォーマンスデータ

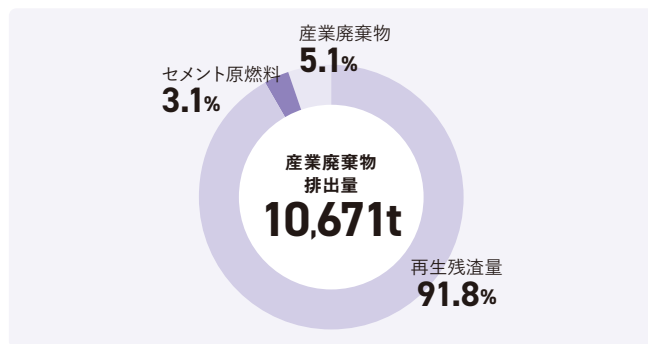
INPUT			
資源	合計	摂津工場	北港工場
ガソリン(kL)	3	3	0
プロパン(m)	2	2	0
軽油(kL)	138	73	65
A重油(kL)	0	0	0
灯油(kL)	0	0	0
電力(kWh)	555,488	316,814	238,674
工業用水(m ³)	0	0	0
アセチレン(t)	0	0	0

SR製造原料			
	合計	摂津工場	北港工場
①産業廃棄物(t)	14,929	7,214	7,715
繊維くず	3	1	2
木くず	269	112	157
紙くず	2	2	0
ガラスくず	68	56	12
がれき類	15	7	8
混合廃棄物	11,726	5,975	5,751
廃プラ類	2,642	928	1,714
もえがら	0	0	0
金属くず	204	133	71
②船舶廃油(t)	-	-	-
③原材料(t)	-	-	-
再生燃料	-	-	-



収集運搬業務			
	合計	摂津工場	北港工場
軽油使用量(kL)	137.8	72.7	65.1
ガソリン使用量(kL)	3.0	3.0	0.1

OUTPUT			
	合計	摂津工場	北港工場
CO ₂ 排出量(t-CO ₂)	629	346	283
RPF出荷量(t)	2,565	1,365	1,200
産業廃棄物排出量(t)	10,671	4,906	5,765
再生残渣量	9,795	4,847	4,948
セメント原燃料	329	0	329
産業廃棄物	547	59	488
廃プラスチック類	512	24	488
金属くず	31	31	0
木くず	4	4	0
紙くず	0	0	0
ゴムくず	0	0	0
ガラスくず	0	0	0
有価金属くず(t)	1,294	778	516
有価廃プラ(t)	260	118	142
有価紙くず(t)	162	80	83
有価ガラス(t)	42	18	24



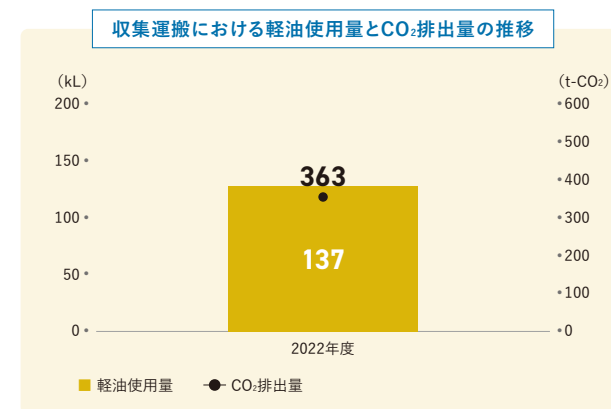
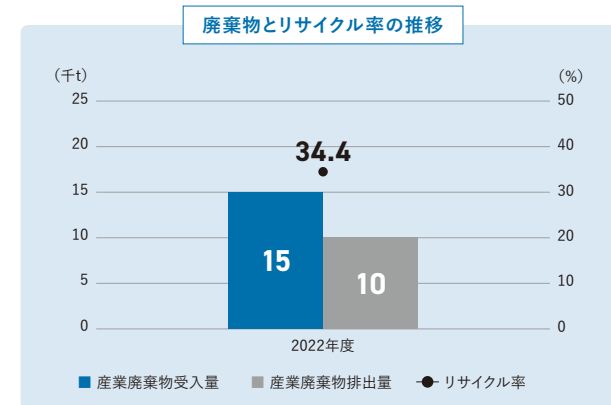
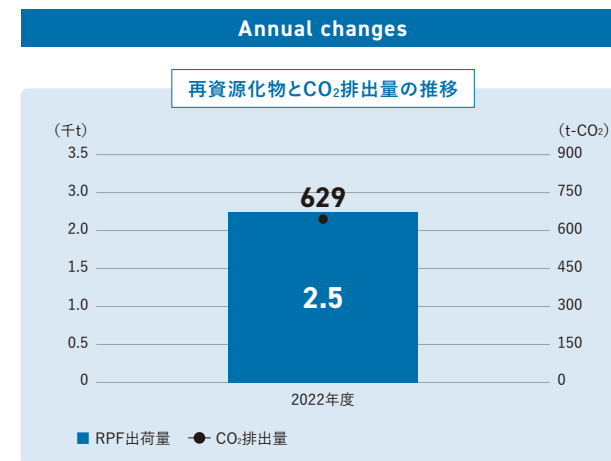
リサイクル率の計算式			
	合計	摂津工場	北港工場
リサイクル率(%)	34.4	32.8	35.9

リサイクル率の計算式

$$\text{リサイクル率} = \frac{(\text{受入廃棄物量} - \text{空容器量}) - \text{再生残渣量}}{\text{受入廃棄物量} - \text{空容器量}} \times 100$$

収集運搬業務			
	合計	摂津工場	北港工場
CO ₂ 排出量(t-CO ₂)	363	194	168

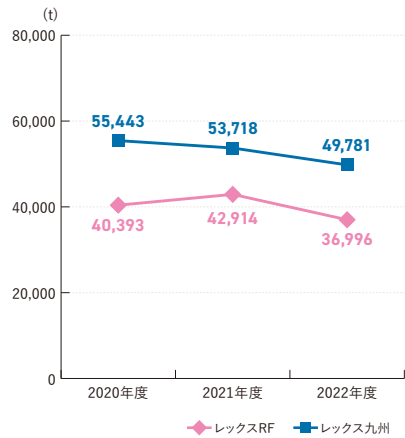
●対象/レックスSR(摂津工場、北港工場) ●集計期間/2022年4月1日～2023年3月31日



DATA リマテック=レックスグループデータ実績《2022年度》

RF出荷量

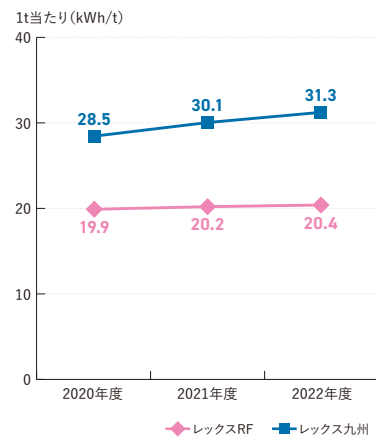
対象/レックスRF、レックス九州



RF電気消費量

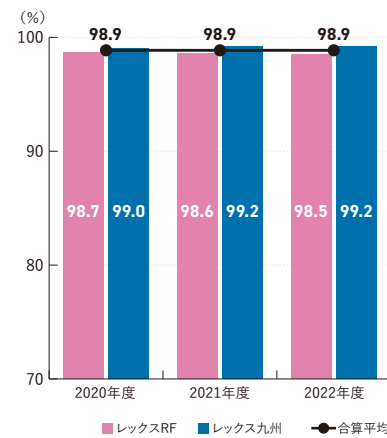
※RF出荷量に対する電力消費量

対象/レックスRF、レックス九州



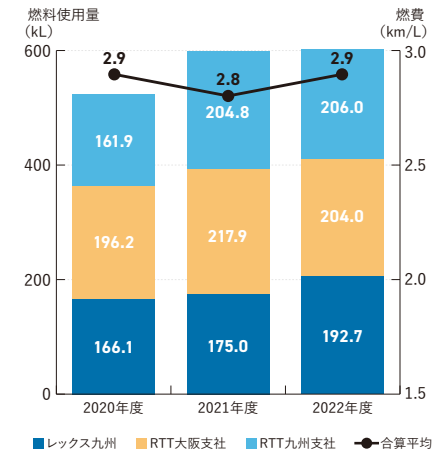
リサイクル率

対象/レックスRF、レックス九州



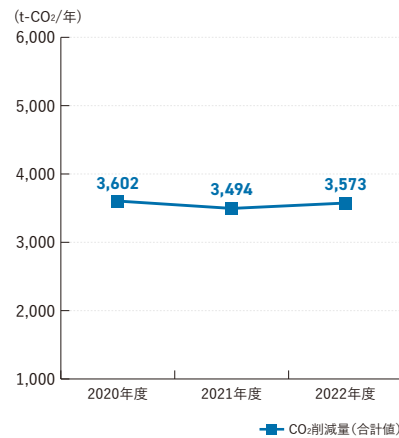
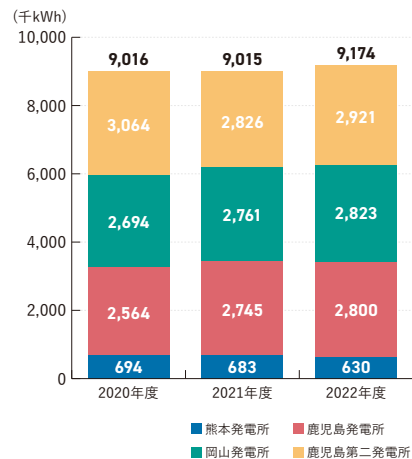
収集運搬業務における燃料使用量と燃費

対象/レックス九州、RTT



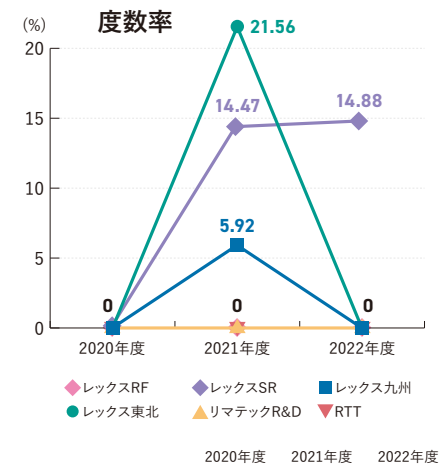
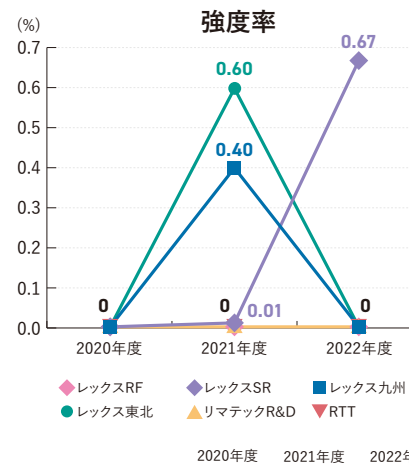
太陽光発電量&CO₂削減量

対象/熊本発電所、鹿児島発電所、岡山発電所、鹿児島第二発電所



強度率&度数率

対象/レックスRF、レックスSR、レックス九州、レックス東北、リマテックR&D、RTT



2020年度	2021年度	2022年度	
一般・産業廃棄物処理業	0.48%	0.17%	0.31%

2020年度	2021年度	2022年度	
一般・産業廃棄物処理業	6.95%	4.02%	3.85%

出典：厚生労働省の労働災害動向調査より
 ※強度率/延労働時間当たりの労働損失日数をもって、災害の重さの程度を表す。 ※度数率/延労働時間当たりの労働災害による死傷者数をもって、労働災害の頻度を表す。

DATA 環境・安全衛生活動報告データ《2022年度実績・2023年度目標》(重点取り組みを一部抜粋)

	社会的課題との適合性		目的・目標	実施事項の計画	目的・目標に対する結果	評価	目標値(2023年度)	実施項目の計画(2023年度)
	環境管理活動	産業廃棄物リサイクル率の向上		摂津工場:34%以上 北港工場:36%以上	<ul style="list-style-type: none"> 機械設備の始業前点検の励行と定期的なメンテナンスを実施 搬入物を適切な各設備への誘導 工場敷地内の4S(整理・整頓・清潔・清掃)活動 	<ul style="list-style-type: none"> 摂津工場:31.4% 北港工場:36.0% 	<ul style="list-style-type: none"> 摂津工場 × 北港工場 ○ 	<ul style="list-style-type: none"> 摂津工場:34%以上 北港工場:36%以上
利害関係者・地域住民からの苦情		苦情:0件	<ul style="list-style-type: none"> 粉じん抑制対策の実施(ミスト散水等) 利害関係者とのコミュニケーションを充実 工場敷地内外の4S(整理・整頓・清潔・清掃)活動 	<ul style="list-style-type: none"> 苦情:0件 	○	苦情:0件	<ul style="list-style-type: none"> 粉じん抑制対策の実施(ミスト散水等) 利害関係者とのコミュニケーションを充実 工場敷地内外の4S(整理・整頓・清潔・清掃)活動 	
工場周辺の美化(清掃)活動		1回以上/月の清掃活動	<ul style="list-style-type: none"> 工場周囲道路及び水路等のゴミ集積を実施 	<ul style="list-style-type: none"> 1回以上/月:実施 	○	1回以上/月の清掃活動	<ul style="list-style-type: none"> 工場周囲の計画的な清掃活動を継続 	
安全衛生活動		安全	<ul style="list-style-type: none"> 労働災害:0件 通勤災害:0件 	<ul style="list-style-type: none"> 定期安全パトロールの実施 法令や社内ルール(安全保護具使用含む)の厳守 安全教育(毎月)の実施と作業手順の周知 	<ul style="list-style-type: none"> 労働災害:3件 通勤災害:0件 	×	労働災害:0件 通勤災害:0件	<ul style="list-style-type: none"> 日々の安全巡回の徹底と安全教育による安全意識の向上 法令・社内ルールの厳守と作業手順の周知 作業場4Sの徹底 工場内の創意工夫による安全設備の設置及び使用
環境管理活動	CO ₂ の削減		2021年実績の工場高圧電力の使用量0.5%削減 目標値:704,003kWh/年	<ul style="list-style-type: none"> 残業時間の短縮 間欠運転時間の見直し 	<ul style="list-style-type: none"> 681,682kwh 	○	2022年実績の工場高圧電力の使用量0.5%削減 目標値:705,717kWh/年	<ul style="list-style-type: none"> 工場内設備の効率的運転 間欠運転等を実施 操業時間短縮等を検討・実施
	RFのリサイクル率向上		年間目標:99%以上	<ul style="list-style-type: none"> 製品残渣の搬出量低減 異物混入減少に向けた顧客への周知の強化 	<ul style="list-style-type: none"> 99.2% 	○	RFのリサイクル率向上:99%	<ul style="list-style-type: none"> 工場から発生する廃棄物の削減(有価物化への推進)
	軽油使用量削減(フォークリフト): 2021年度比1%削減、年間目標:8,149L			<ul style="list-style-type: none"> 電気リフトの導入促進 エコ運転の徹底(アイドリングストップ等) 	<ul style="list-style-type: none"> 5,593L 	○	軽油使用量削減(フォークリフト): 前年度の1%削減	<ul style="list-style-type: none"> フォークリフト導線を短くする 無駄な空吹かしをしない 全開走行をしない
	臭気拡散防止		臭気クレーム:0件/年	<ul style="list-style-type: none"> 脱臭設備の継続的な改善 	<ul style="list-style-type: none"> 臭気クレーム:0件 	○	臭気クレーム:0件/年	<ul style="list-style-type: none"> 4番シャッター上部のマスキングを噴霧 工場シャッターの開閉を極力少なくする 脱臭装置の最適な運転管理の継続
安全衛生活動	安全・交通		労働災害:0件/年 通勤災害:0件/年	<ul style="list-style-type: none"> 交通災害防止のためKYシート訓練、交通重点活動の推進を実施 	<ul style="list-style-type: none"> 労働災害:0件/年 通勤災害:0件/年 	○	労働災害:0件/年 通勤災害:0件/年	<ul style="list-style-type: none"> 朝礼で入荷物の注意事項を全員に周知徹底し、手順・ルールの順守を実施 他社で発生した事故事例や交通KY等を参考にし、自社でも同様の事故を発生させないよう自己防衛運転を徹底するよう周知する。
	衛生		個人健康管理目標達成95%	<ul style="list-style-type: none"> 健康診断結果をもとに産業医の指導を仰ぎ、個人管理目標の設定 	<ul style="list-style-type: none"> 達成率:100% 	○	個人健康管理目標達成95%	<ul style="list-style-type: none"> 定期健康診断結果や個々に取り組んでいる健康管理のための取組を数値化し、目標とする 具体的な取組の進捗状況を毎月確認しながら、全体としての健康増進アップを図る
	防災		地震・火災想定訓練:1回/年	<ul style="list-style-type: none"> 南海トラフ巨大地震を想定した訓練の継続実施 	<ul style="list-style-type: none"> 地震・火災想定訓練1回実施 	○	地震・火災想定訓練1回/年	<ul style="list-style-type: none"> 南海トラフ大地震による被害想定として実施する。 大地震発生後、火災発生し初期消火し、安否確認し、全員で避難できるように、BCP規程に沿った訓練と周知を確実に実施する。
	安全衛生活動		安全	<ul style="list-style-type: none"> 労働災害:0件 	<ul style="list-style-type: none"> KY活動・定期パトロールの実施 法令・規程の順守 リスクアセスメントの実施およびハザードマップの作成・更新の周知 	<ul style="list-style-type: none"> 0件 	○	事故・災害:0件
リマテックR&D	電力削減		2020年度実績維持(±1%以内) 2020年度実績:78,494kwh/年 2022年度目標:77,709~79,279kwh/年	<ul style="list-style-type: none"> 未使用場所(室内)の消灯徹底 使用電力確認(使用量過多がある場合は要因分析し対策検討) 	<ul style="list-style-type: none"> 年間使用量:74,795kwh(4.7%削減) (年間平均6,233wh) 	○	前年度実績維持(±1%以内)	<ul style="list-style-type: none"> 未使用場所(室内)の消灯徹底 使用電力確認(使用量過多がある場合は要因分析し対策検討)
	安全		事故・災害:0件	<ul style="list-style-type: none"> 安全の日実施により安全衛生に関する情報共有および啓蒙 ストレスチェック実施:1回(2月) 健康診断受診率:100% 	<ul style="list-style-type: none"> 安全の日実施:毎月実施済 ストレスチェック実施:1回(2月) 健康診断受診率:100% 	○	安全の日実施:1回/月 ストレスチェック実施:1回/年 健康診断受診率:100%	<ul style="list-style-type: none"> 安全の日実施により安全衛生に関する情報共有および啓蒙 ストレスチェックおよびフォローの実施 定期健康診断の受診

▶ データ集 ◀

レックス九州

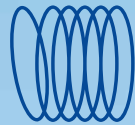
	社会的課題との適合性	目的・目標	実施事項の計画	目的・目標に対する結果	評価	目標値(2023年度)	実施項目の計画(2023年度)
環境管理活動	電力削減	RF燃料1tあたりの電力消費量の削減:28.0kw/t	<ul style="list-style-type: none"> ■攪拌機等の設備の間欠運転 ■照明のON・OFFなど小まめな電力削減 	<ul style="list-style-type: none"> ■夜間作業時等、使用しない貯蔵タンクの攪拌機の間欠運転を実施 ■1tあたりのRF生産に使用する電力量について、分母である生産量が減ったため⇒結果:28.7kwh/t 	×	RF燃料1tあたりの電力消費量の削減:28.0kw/t	<ul style="list-style-type: none"> ■低電力消費設備への変更を検討 ■日々、攪拌機等の間欠運転等に努め電力消費量を削減 ■毎月の生産計画を達成し、1tあたりの生産量を落とさず維持
	再資源化による天然資源の枯渇抑制	出荷量:55,440t	<ul style="list-style-type: none"> ■処理計画に基づく計画的な生産 ■定期的な現場パトロールおよび設備メンテナンス ■新入社員等に対する教育 	<ul style="list-style-type: none"> ■日々の生産計画や製造会議等による進捗管理 ■パトロール結果、不具合所はメンテナンス実施 ■新入社員等に対する安全及び操業教育の実施 ■RF供給先設備トラブルによる出荷量減⇒結果:49,781t 	×	出荷量:56,611t/年	<ul style="list-style-type: none"> ■定期的な設備点検と修繕による生産設備のフル操業 ■科学的解析手法の導入による廃棄物搬入の安定システムの構築とRF生産ライン等の設備自動化の模索 ■処理困難廃棄物への対応力・技術力の強化と将来を担える人材の育成強化
	水質・土壌汚染防止	雨水処理設備からの放流基準オーバー:0件 (pH:5.8以上~8.6以下透視度:1,000mm以上) 漏洩事故:0件	<ul style="list-style-type: none"> ■雨水処理設備の日常的な管理 ■放流水(雨水)の日々の監視 ■3者(近隣住民・行政・当社)立ち会いのサンプリングから水質検査 ■日々の場内点検と定期的な車両整備 ■台風接近時などに養生の徹底 ■収集運搬時の積載時・途中の休憩途中の確認 	<ul style="list-style-type: none"> ■日々の監視結果、基準を全てクリア ■QC活動にて放流池内の水質改善を実施 ■3者(近隣住民・行政・当社)立ち会いの水質検査を年4回実施⇒結果:雨水処理設備からの放流基準オーバー0件 ■場内巡視時に保管容器の亀裂等を確認 ■8・9月の台風接近時に養生を実施 ■客先にて積載時・途中の休憩時に確認⇒結果:漏洩事故0件 	○	○	雨水処理設備からの放流基準オーバー:0件 (pH:5.8以上~8.6以下透視度:1,000mm以上)
安全衛生活動	社会的課題との適合性	目的・目標	実施事項の計画	目的・目標に対する結果	評価	目標値(2023年度)	実施項目の計画(2023年度)
	安全	事故・災害:0件	<ul style="list-style-type: none"> ■毎月のトップパトロールとリスクアセスメントを実施 ■外部講師を招いて安全衛生教育の実施 ■「夏期無事故無災害92日運動」の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ■トップパトロール(12回/年)、リスクアセスメント(320件/年) ■時期に適した内容及び外部講師を招いての事務局教育を実施⇒結果:事故・災害:1件 	×	事故・災害:0件	<ul style="list-style-type: none"> ■運営方針「しない・させない」に「ゆるさない」を念頭に「安全第一」の徹底 ■社員ファーストと働き方改革を軸に、心身を健全に保てる労働環境づくり ■過去の事故災害の原因と教訓の継承教育と事故・災害リメンバーカレンダーによる類似事故防止
	衛生	健康個人目標の達成:85%以上	<ul style="list-style-type: none"> ■健康個人目標達成状況の進捗管理 ■産業医・保健師による面談及び指導とストレスチェックの実施 ■大分県臼杵市主催の「事業所ぐるみで健康チャレンジ事業」に参加 	<ul style="list-style-type: none"> ■健康個人目標達成状況のデータ管理 ■産業医・保健師による面談指導を実施 ■ストレスチェックを実施し、各人がストレス度合いを把握及び集団分析結果を共有⇒結果:健康個人目標89.6% 	○	健康個人目標の達成:85%以上	<ul style="list-style-type: none"> ■健康個人目標達成状況の進捗管理 ■健康・ストレスチェックによる産業医・保健師の面談及び指導 ■「事業所ぐるみで健康チャレンジ事業」に参加
	防災	異常反応時の防災訓練:1回/年	<ul style="list-style-type: none"> ■火災事故発生時の緊急時対応訓練の実施 ■安否確認メール配信システムの運用 	<ul style="list-style-type: none"> ■年1回の火災総合訓練を実施 ■安否確認メール配信(テスト含む)を実施⇒結果:1回/年 実施 	○	火災事故:0件 漏洩事故:0件	<ul style="list-style-type: none"> ■混合テスト及び貯蔵タンク内の徹底監視 ■安否確認メール配信システムの運用確認と一斉訓練 ■火災事故発生時の緊急時対応訓練実施
交通	交通事故:0件	<ul style="list-style-type: none"> ■計画に基づいたドライバーチェックの実施 ■法定速度順守及び車間距離確保の指導・励行 ■全国・大分県交通安全運動への参加 	<ul style="list-style-type: none"> ■ドライバーチェック(6回/年)・街頭指導(8回/年)の実施 ■毎月、営業課等ではヒヤリハット事例を検討 ■重点活動項目にて法定速度・車間距離の指導・励行⇒結果:交通事故1件 	×	交通事故:0件 違反:0件	<ul style="list-style-type: none"> ■全国交通安全運動期間中の安全運転の呼び掛け ■定期的ドライバーチェック活動(運輸課全員及び交通事故発生当事者対象) ■豊の国セーフティーチャレンジに参加 	

レックス東北

環境管理活動	温室効果ガス排出量の削減	電力削減:前年度実績維持(±1%以内) 重機燃料原単位の削減:前年度実績維持(±1%以内)	<ul style="list-style-type: none"> ■照明や電化製品の節電 ■作業効率化や重機使用燃料の削減策の検討/実施 	<ul style="list-style-type: none"> ■電力消費量前年度比:8.7%増 ■重機燃料原単位:3%増 	×	電力削減:前年度比1%削減 重機での燃料原単位の削減(前年度比1%削減)	<ul style="list-style-type: none"> ■照明機器・電化製品の節電と見直し ■作業効率化や重機使用燃料の削減策の検討/実施
	請負業務での環境保全	周辺環境に配慮した作業の実施:苦情0件 発塵、騒音防止:苦情0件	<ul style="list-style-type: none"> ■作業終了後の清掃または一斉清掃による4Sの習慣化を図る ■作業環境・地域環境保全として発塵、騒音対策を実施 	<ul style="list-style-type: none"> ■作業終了時に4S随時実施⇒苦情0件 ■散水車による場内散水を実施⇒苦情0件 	○	周辺環境に配慮した作業の実施:苦情0件	<ul style="list-style-type: none"> ■作業終了後の清掃または一斉清掃による4Sの習慣化を図る ■作業環境・地域環境保全として発塵、騒音対策を実施
	セメント再資源化への貢献	請負業務の全量適正前処理受入拒否:0件	<ul style="list-style-type: none"> ■重機や機械設備トラブルの防止・対応 ■作業停止ロスの低減 	<ul style="list-style-type: none"> ■重機、機械設備の早期修繕実施や改善提案の実施 ■受入拒否:0件 	○	請負業務の全量適正前処理受入拒否:0件	<ul style="list-style-type: none"> ■重機や機械設備トラブルの防止・対応 ■作業停止ロスの低減
安全衛生活動	社会的課題との適合性	目的・目標	実施事項の計画	目的・目標に対する結果	評価	目標値(2023年度)	実施項目の計画(2023年度)
	安全	完全無災害 過失による物損事故:0件 安全教育強化	<ul style="list-style-type: none"> ■ルール遵守と指導の徹底 ■未習熟者への教育強化(外部・自社教育実施) ■標準書、手順の再確認(全員周知) 	<ul style="list-style-type: none"> ■不休・休業災害:0件 ■物損事故:0件 	○	事故・災害:0件	<ul style="list-style-type: none"> ■KY活動の完全実施 ■相互注意の実践 ■ヒヤリハット抽出とリスクアセスメントの実施
	衛生	個人健康目標達成率:80%以上 定期・特定健康診断受診率:100% 安全衛生保護具の点検実施率:100%	<ul style="list-style-type: none"> ■個人健康目標達成の設定、月毎の進捗管理 ■安全衛生教育の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ■個人衛生目標達成率:81% ■健康診断受診率:100% ■安全衛生保護具の点検実施率:100% 	○	個人健康目標達成率80%以上	<ul style="list-style-type: none"> ■個人健康目標の立案、進捗管理 ■定期・特定健康診断の受診、有所見者再検査の受診を推進
防災	自然災害等の緊急事態に備えた事前準備	<ul style="list-style-type: none"> ■消火設備の定期点検の実施 ■消火・放水訓練、合同津波避難訓練参加 	<ul style="list-style-type: none"> ■消火設備の定期点検:2回/年 ■訓練の実施:2回/年 	○	火災・漏洩事故:0件	<ul style="list-style-type: none"> ■火災、油漏洩処置道具点検の実施 ■在庫量を確認しながら廃棄物置場の温度管理 	

RTT

環境管理活動	社会的課題との適合性	目的・目標	実施事項の計画	目的・目標に対する結果	評価	目標値(2023年度)	実施項目の計画(2023年度)
	地球温暖化の防止(燃料使用量の削減)	燃料使用量の削減目標 燃費 大阪支社:トラック3.5km/L、トレーラ2.7km/L 九州支社:トレーラ2.3km/L	<ul style="list-style-type: none"> ■添乗指導により、ムリ、ムダ、ムラ、ムボウを自覚・納得させエコ運転をさせる 	<ul style="list-style-type: none"> ■燃料使用量の削減目標 燃費 大阪支社:トラック3.5km/L、トレーラ2.7km/L 九州支社:トレーラ2.3km/L 	○	燃料使用量の削減目標 燃費 大阪支社:トラック3.5km/L、トレーラ2.7km/L 九州支社:トレーラ2.3km/L	<ul style="list-style-type: none"> ■添乗指導により、ムリ、ムダ、ムラ、ムボウを自覚・納得させエコ運転をさせる
安全衛生活動	社会的課題との適合性	目的・目標	実施事項の計画	目的・目標に対する結果	評価	目標値(2023年度)	実施項目の計画(2023年度)
交通	人身事故:0件	<ul style="list-style-type: none"> ■添乗指導により、基本動作を確認し、自覚・納得させ自信を持たせる 	<ul style="list-style-type: none"> ■人身事故:0件 	○	人身事故:0件	<ul style="list-style-type: none"> ■添乗指導により、基本動作を確認し、自覚・納得させ自信を持たせる 	



REMATEC
Innovation for the Earth



Re:CS
GROUP
Re-Creation for Sustainable Society